

「健康被害救済制度に関する認知度調査」
調査報告書
〈〈一般国民〉〉

平成21年9月30日

独立行政法人医薬品医療機器総合機構 健康被害救済部



目次

調査概要	P3
対象者のプロフィール	P4
Summary	P5
コメント	P9
1 健康被害救済制度 認知率	P10
2 医薬品副作用被害救済制度 認知率	P11
3 生物由来製品感染等被害救済制度 認知率	P12
4 健康被害救済制度 内容認知	P13
5 健康被害救済制度 認知経路	P15
6 健康被害救済制度 教えてもらった人	P16
7 健康被害救済制度 パンフレット・ポスター接触場所	P17
8 広告の認知率	P18
9 広告の接触場所	P19
10 健康被害救済制度 関心度	P20
11 健康被害救済制度 情報収集の方法	P21
12 副作用の経験	P22
13 副作用で治療を受けた経験	P23
14 健康被害救済制度を利用した経験	P24
15 健康被害救済制度利用時の相談先	P25
16 健康被害救済制度利用時の相談相手	P26
17 健康被害救済制度利用時に苦勞した事柄	P27
18 健康被害救済制度を利用しなかった理由	P28
19 健康被害救済制度 今後の利用意向	P29
20 健康被害救済制度 利用意向の理由 有効な周知の方法	P30
付録: 調査票	P31

調査概要

- ・ 調査目的 健康被害救済制度の浸透度を把握し、今後の基礎資料とする
- ・ 調査対象 マクロミルモニタ 20歳以上の男女
- ・ 調査地域 全国
- ・ 調査方法 インターネット調査
- ・ 調査時期 2009年7月25日(土)～7月27日(月)
- ・ 有効回答数 3,119サンプル
(人口統計比にあわせて回収)

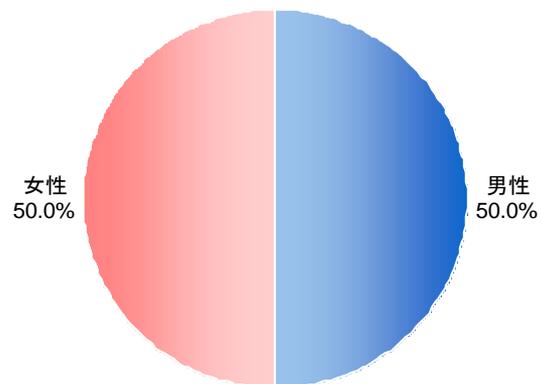
	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
男性_20代	14	22	113	55	50	17	9	33
男性_30代	13	20	115	57	50	17	9	30
男性_40代	14	24	107	57	48	18	10	36
男性_50代	15	25	99	57	49	19	11	37
男性_60才以上	15	25	96	58	50	20	11	35
女性_20代	14	22	107	54	53	18	9	37
女性_30代	14	20	110	56	54	17	9	33
女性_40代	15	25	98	55	49	18	11	38
女性_50代	16	24	96	57	51	20	11	37
女性_60才以上	15	26	89	58	50	22	12	39

(人)

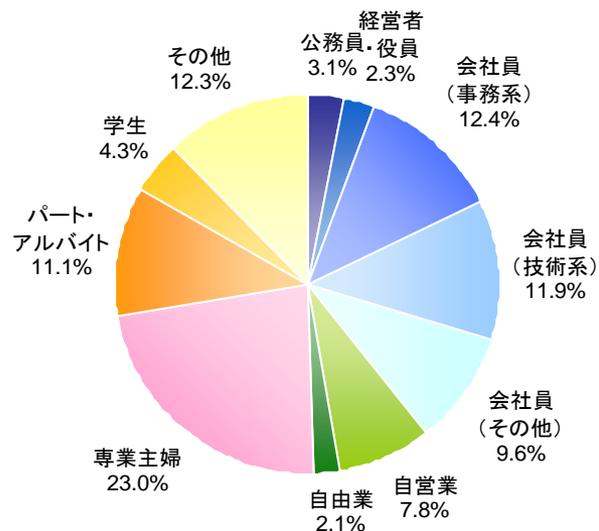
- ・ 調査実施機関 株式会社マクロミル

対象者のプロフィール (n=3,119)

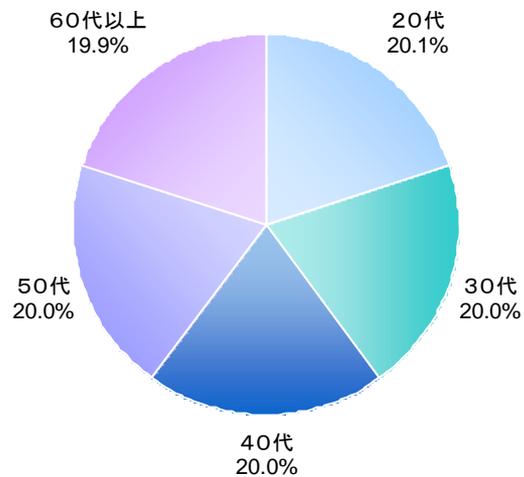
【性別】



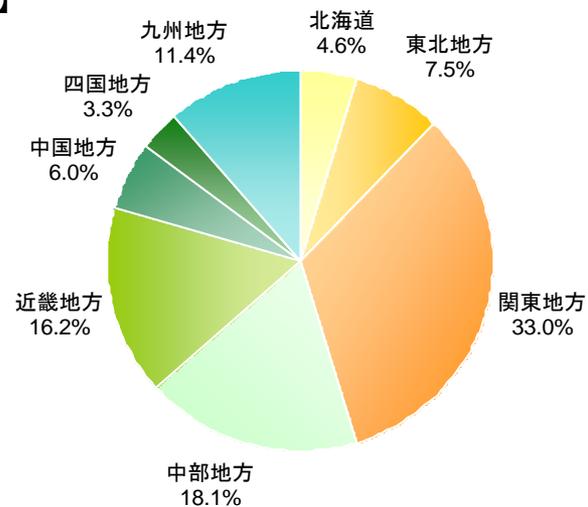
【職業】



【年代】



【居住地】



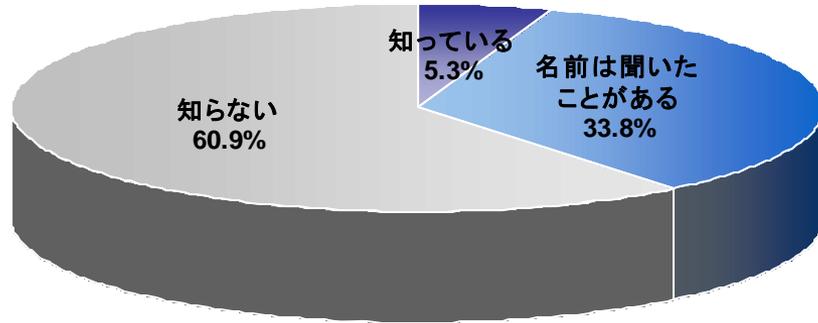
Summary

Summary

【健康被害救済制度 認知率】

単一回答

(n=3,119)

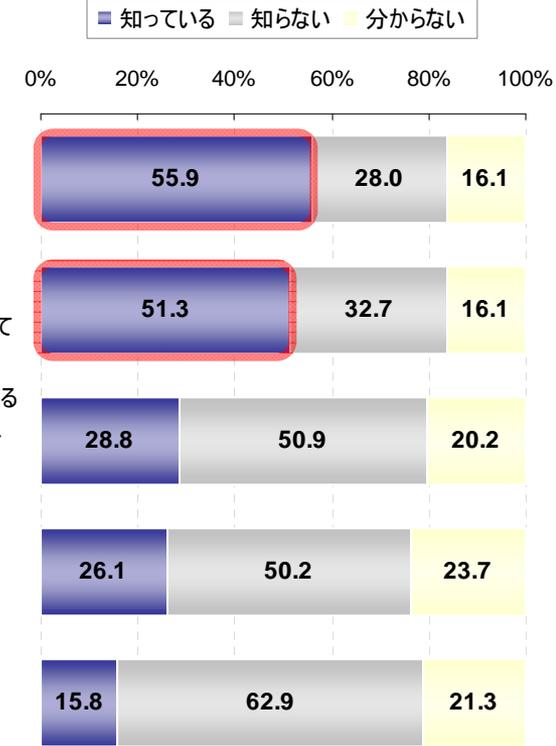


認知計 39.1%

【健康被害救済制度 内容認知】

単一回答

(n=1,221)



✓健康被害救済制度の認知率は、「知っている」、「名前を聞いたことがある」を合わせると39%。确实認知（「知っている」）は、5%にとどまる。

- 『東北地方』の認知率が約半数と、他のエリアと比べ高いが、确实認知は6%と差は見られない。
- 認知率に男女差は見られないが、确实認知は『男性』がやや高め。
- 男女『60代以上』は、他の年代よりも認知率が高め。

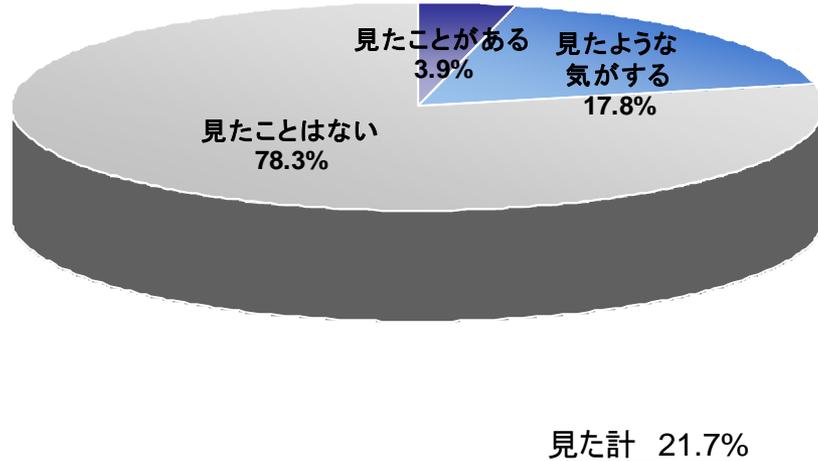
✓健康被害救済制度認知者の認知内容を見ると、「医薬品の副作用による被害を受けられた方の迅速な救済を図ることを目的とした公的な制度である」、「医薬品を、適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による疾病や障害などの健康被害について救済給付を行う」の認知が過半数となっている。

- 『北海道』は、「給付の種類にはいくつかの種類がある」、『四国地方』では、「給付には、種類ごとにそれぞれ請求期限がある」が他のエリアと比べ高めである。

Summary

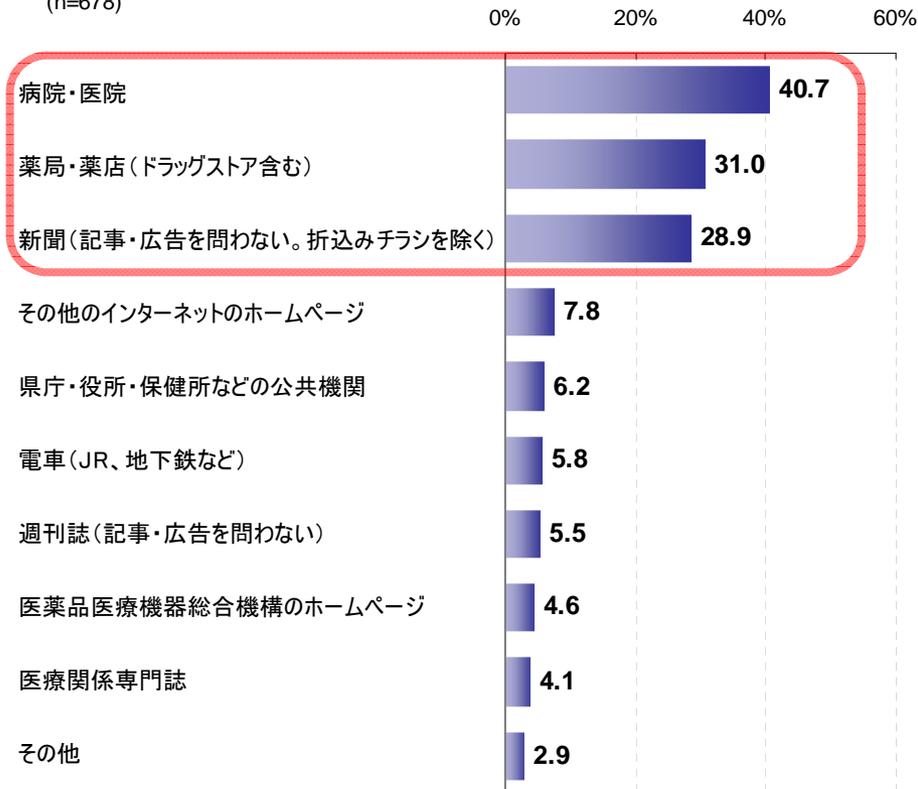
【広告 認知率】 単一回答

(n=3,119)



【広告 接触媒体】 複数回答

(n=678)



✓ 広告の認知率は、「見たことがある」、「見たような気がする」を合わせると22%。确实認知(「見たことがある」)は5%に満たない。

- 『東北地方』、『北海道』、『四国地方』、『九州地方』の認知率が、25%前後と高め。
- 『男性』の認知率が『女性』をやや上回っている。高年齢層の認知率が高めの傾向。

✓ 広告認知者の接触媒体は、「病院・医院」41%がトップ。以下、「薬局・薬店」、「新聞」が3割前後で続き上位を形成している。

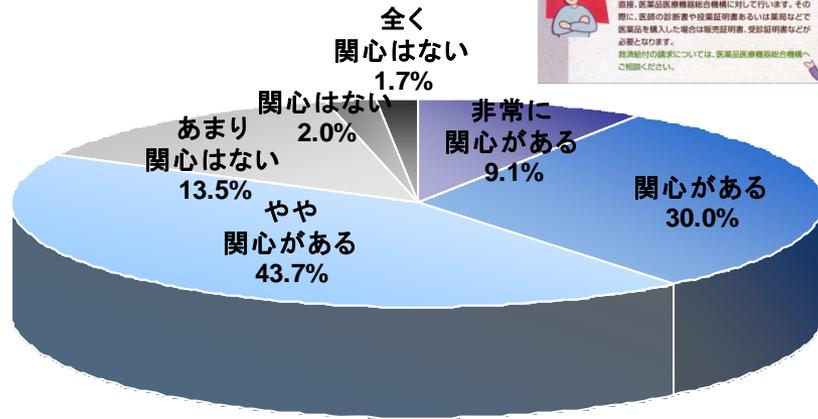
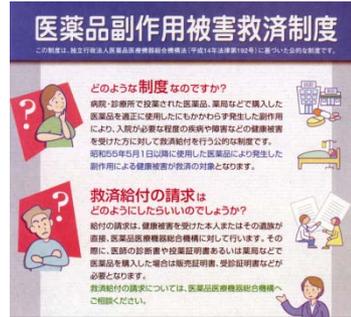
- 「病院・医院」「薬局・薬店」は男女30代を中心に高め。
- 「新聞」は、男女とも『60代以上』で高く、『女性60代以上』では接触媒体のトップとなっている。

Summary

【健康被害救済制度 関心动度】

単一回答

(n=3,119)



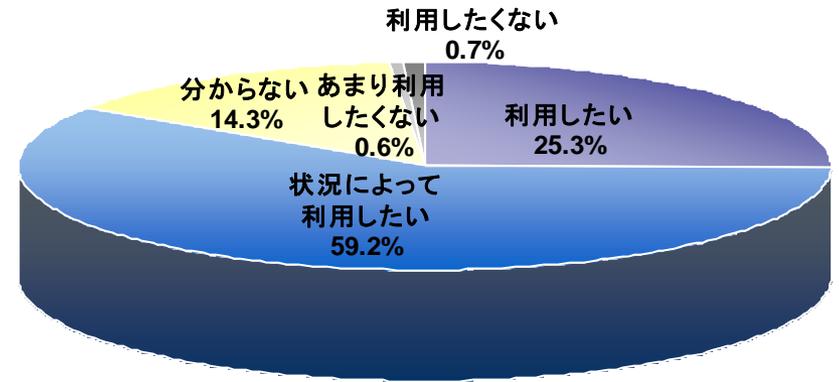
TOP2 39.1%

TOP3 82.8%

【健康被害救済制度 利用意向】

単一回答

(n=3,119)



利用したい計 84.4%

✓健康被害救済制度への関心动度は、「非常に関心がある」～「やや関心がある」を合わせると83%。

- エリア別に見ると、いずれの地方も関心动度が8割以上となっている。
- 年代別に見ると、関心の度合いは、『60代以上』で非常に高まり、「非常に関心がある」+「関心がある」で5割前後を占めている。

✓健康被害救済制度の今後の利用意向は、「利用したい」、「状況によって利用したい」を合わせると8割以上を占める。

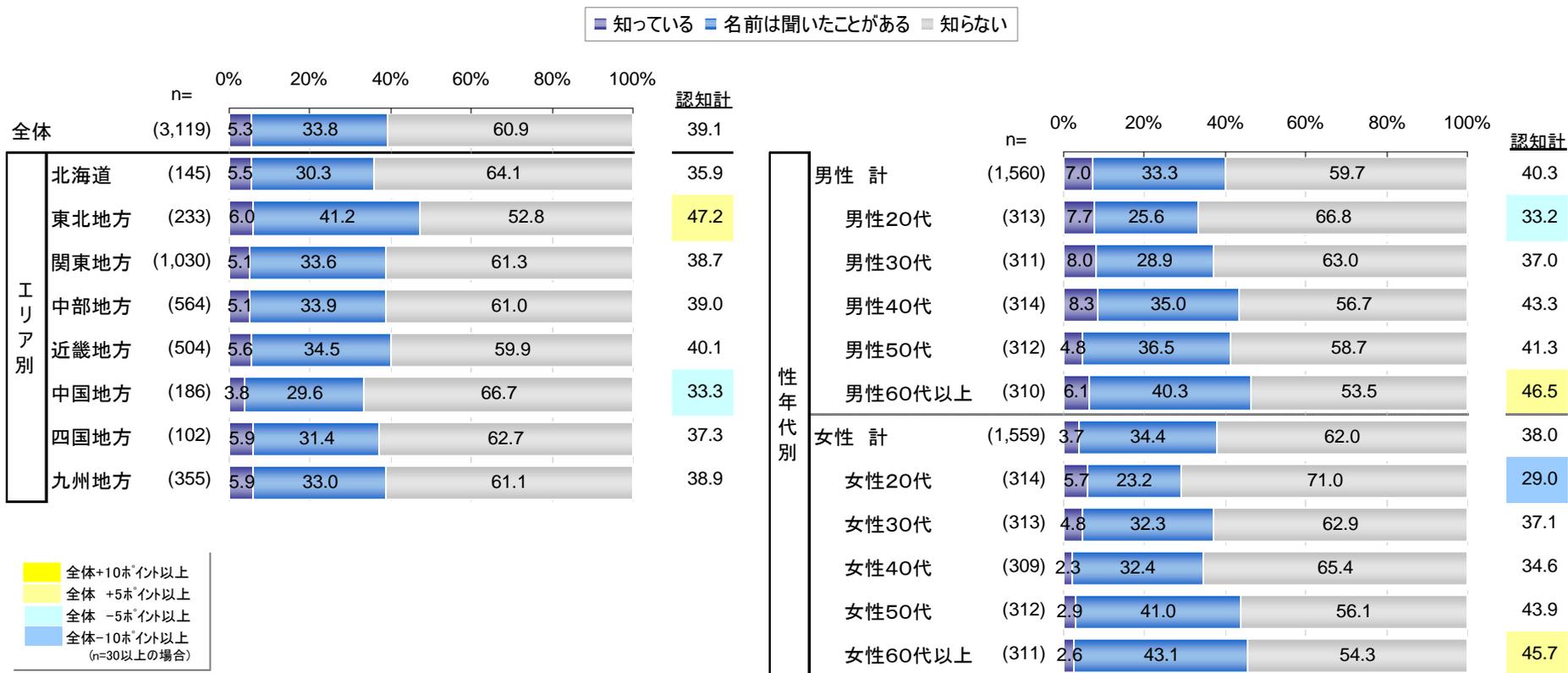
- 『北海道』の利用意向は8割を下回っている。一方、『近畿地方』は9割近くと高い。
- 『女性』の利用意向は、全ての年代で85%を超え、『男性』よりも高い。一方、『男性20代』では8割を下回る。

調査結果

1 健康被害救済制度 認知率

単一回答

Q1 あなたは「健康被害救済制度」をご存知ですか。



•健康被害救済制度の認知率(知っている+聞いたことがある)は、39%。

【エリア別】

•『東北地方』の認知率が47%と高め、一方、『中国地方』では、33%とやや低めである。

【性年代別】

•『男性』は、「知っている」のスコアが高めの傾向。『40代』では、男女差が大きい。

男女ともに『60代以上』の認知率が他の年代と比べ高めとなっている。

2 医薬品副作用被害救済制度 認知率

単一回答

Q2 あなたは下記に挙げた「健康被害救済制度」をご存知ですか。

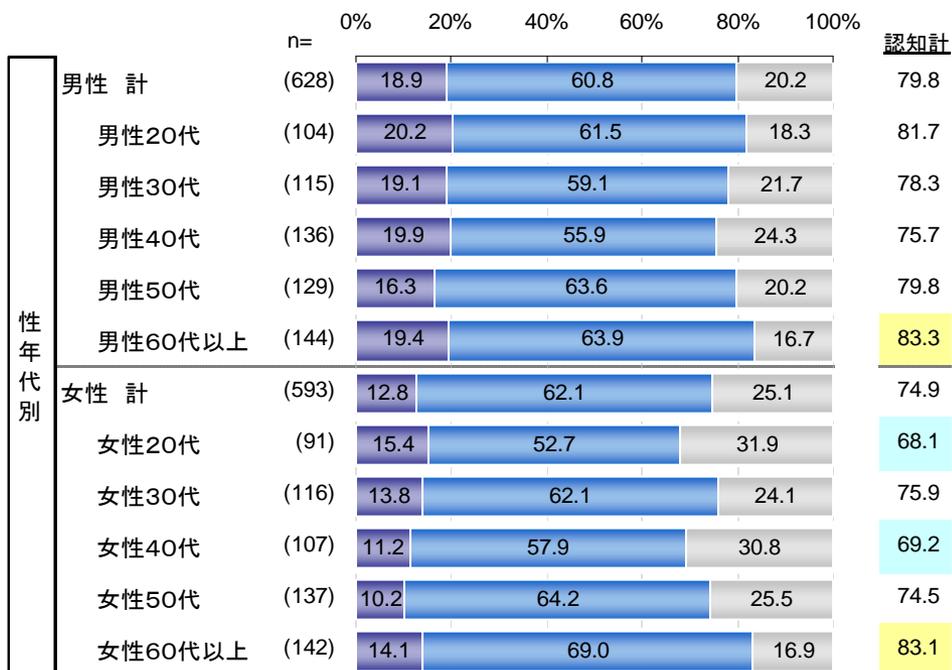
【医薬品副作用被害救済制度】

■ 知っている ■ 名前は聞いたことがある ■ 知らない

* 健康被害救済制度認知者ベース



■ 全体+10ポイント以上
 ■ 全体 +5ポイント以上
 ■ 全体 -5ポイント以上
 ■ 全体-10ポイント以上
 (n=30以上の場合)



・健康被害救済制度認知者のうち、医薬品副作用被害救済制度の認知率(知っている+聞いたことがある)は、77%。

【エリア別】

・『北海道』の認知率がエリア別で唯一9割を上回っている。「知っている」との回答は、『九州地方』が2割強と最も高い。

【性年代別】

・『男性』の認知率が『女性』よりもやや高め。特に、『20代』は男女差が大きい。男女ともに『60代以上』が他の年代と比べ高めとなっている。

3 生物由来製品感染等被害救済制度 認知率

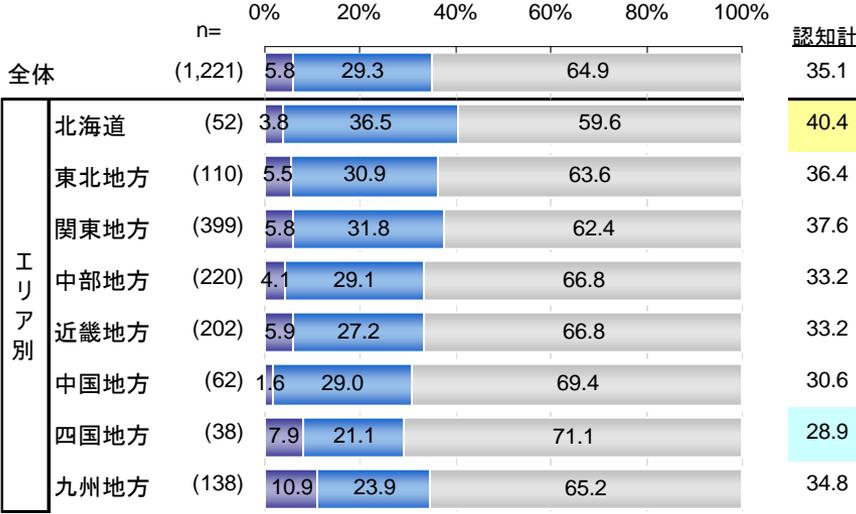
単一回答

Q2 あなたは下記に挙げた「健康被害救済制度」をご存知ですか。

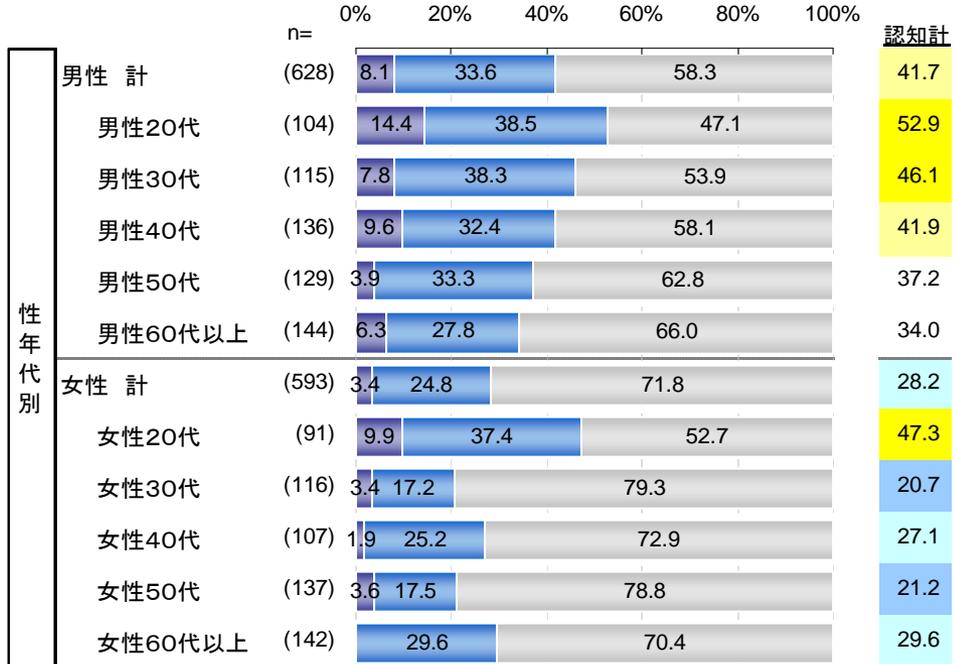
【生物由来製品感染等被害救済制度】

■ 知っている ■ 名前は聞いたことがある ■ 知らない

* 健康被害救済制度認知者ベース



■ 全体+10ポイント以上
■ 全体 +5ポイント以上
■ 全体 -5ポイント以上
■ 全体-10ポイント以上
 (n=30以上の場合)



• 健康被害救済制度認知者のうち、生物由来製品感染等被害救済制度の認知率(知っている+聞いたことがある)は、35%。

【エリア別】

• 『北海道』の認知率が4割を上回り、他のエリアと比べ高めとなっている。

【性年代別】

• 『男性』の認知率が『女性』を大きく上回る。男女ともに『20代』が他の年代と比べ高めとなっている。

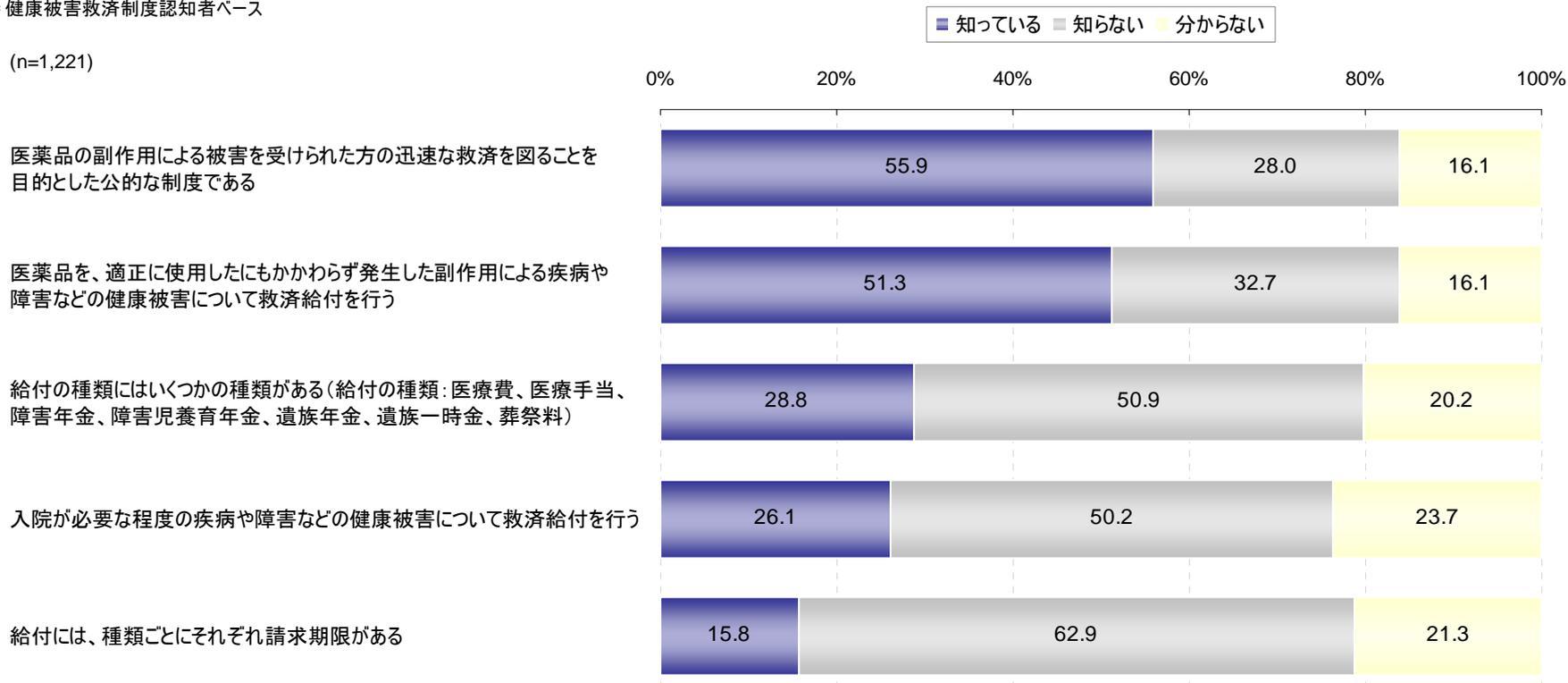
4 健康被害救済制度 内容認知

単一回答

Q3「健康被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。

* 健康被害救済制度認知者ベース

(n=1,221)



- 認知率が過半数となった項目は、「医薬品の副作用による被害を受けられた方の迅速な救済を図ることを目的とした公的な制度である」、「医薬品を、適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による疾病や障害などの健康被害について救済給付を行う」の2項目。

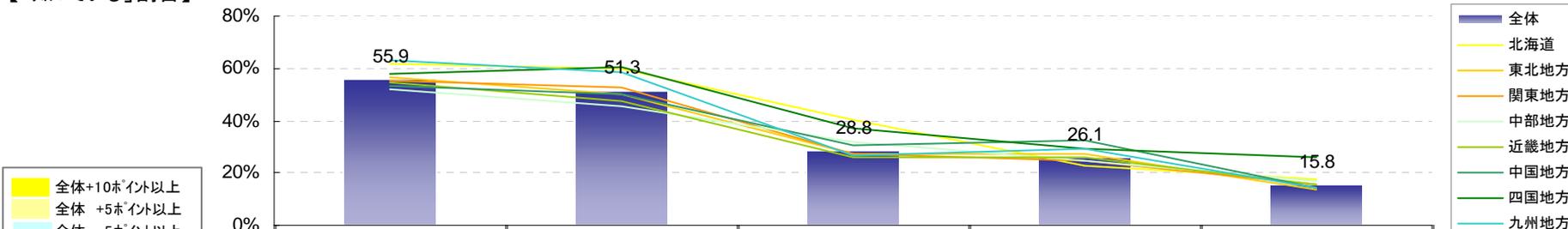
4 健康被害救済制度 内容認知

複数回答

Q3「健康被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。

【「知っている」割合】

* 健康被害救済制度認知者ベース



■ 全体+10ポイント以上
■ 全体 +5ポイント以上
■ 全体 -5ポイント以上
■ 全体-10ポイント以上
 (n=30以上の場合)

		n=	医薬品の副作用による被害を受けられた方の迅速な救済を図ることを目的とした公的な制度である	医薬品を、適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による疾病や障害などの健康被害について救済給付を行う	給付の種類にはいくつかの種類がある	入院が必要な程度の疾病や障害などの健康被害について救済給付を行う	給付には、種類ごとにそれぞれ請求期限がある
全体		(1,221)	55.9	51.3	28.8	26.1	15.8
エリア別	北海道	(52)	61.5	59.6	40.4	23.1	17.3
	東北地方	(110)	56.4	50.0	27.3	27.3	13.6
	関東地方	(399)	55.1	52.4	27.1	24.8	15.3
	中部地方	(220)	52.3	45.5	31.8	24.5	16.8
	近畿地方	(202)	55.0	47.5	26.2	26.2	15.8
	中国地方	(62)	53.2	50.0	30.6	32.3	14.5
	四国地方	(38)	57.9	60.5	36.8	28.9	26.3
	九州地方	(138)	63.0	58.7	26.8	29.0	14.5
	男性 計	(628)	56.7	51.0	26.4	27.1	16.7
性年代別	男性20代	(104)	54.8	53.8	29.8	26.9	16.3
	男性30代	(115)	60.9	56.5	28.7	28.7	17.4
	男性40代	(136)	57.4	49.3	26.5	31.6	16.9
	男性50代	(129)	58.1	51.9	25.6	23.3	15.5
	男性60代以上	(144)	52.8	45.1	22.9	25.0	17.4
	女性 計	(593)	55.0	51.6	31.4	25.1	14.8
	女性20代	(91)	50.5	57.1	29.7	31.9	14.3
	女性30代	(116)	60.3	54.3	37.1	21.6	14.7
	女性40代	(107)	52.3	41.1	28.0	18.7	15.0
	女性50代	(137)	51.8	52.6	27.7	26.3	10.9
	女性60代以上	(142)	58.5	52.8	33.8	27.5	19.0

【エリア別】

- 『北海道』『四国地方』『九州地方』は、他エリアと比べて多くの項目で高め。特に、『北海道』は、「給付の種類にはいくつかの種類がある」、『四国地方』では、「給付には、種類ごとにそれぞれ請求期限がある」が他のエリアと比べ高くなっている。

【性年代別】

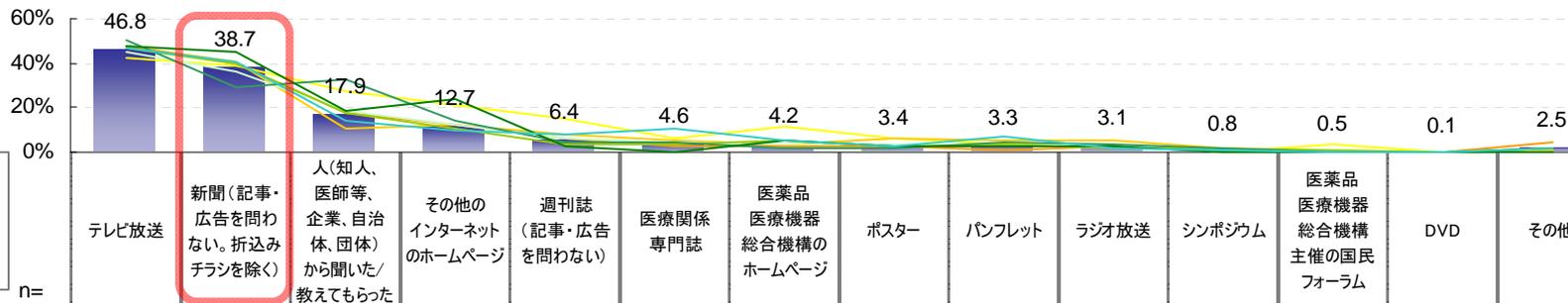
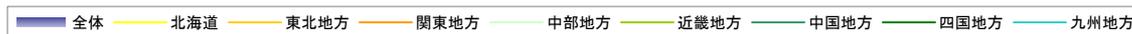
- 「給付の種類にはいくつかの種類がある」で女性が男性よりやや高め。

5 健康被害救済制度 認知経路

複数回答

Q4 あなたは「健康被害救済制度」をどのようにして知りましたか。あてはまるものを全てお選びください。

* 健康被害救済制度認知者ベース



全体+10ポイント以上
全体 +5ポイント以上
全体 -5ポイント以上
全体-10ポイント以上
(n=30以上の場合)

n=

性別	年代	地域	n	テレビ放送	新聞(記事・広告を問わず。折込みチラシを除く)	人(知人、医師等、企業、自治体、団体)から聞いた/教えてもらった	その他のインターネットのホームページ	週刊誌(記事・広告を問わない)	医療関係専門誌	医薬品 医療機器 総合機構のホームページ	ポスター	パンフレット	ラジオ放送	シンポジウム	医薬品 医療機器 総合機構 主催の国民フォーラム	DVD	その他
エリア別	全体		(1,221)	46.8	38.7	17.9	12.7	6.4	4.6	4.2	3.4	3.3	3.1	0.8	0.5	0.1	2.5
	北海道		(52)	42.3	38.5	26.9	21.2	15.4	5.8	11.5	5.8	3.8	3.8	-	3.8	-	1.9
	東北地方		(110)	47.3	40.9	10.9	12.7	8.2	5.5	3.6	6.4	5.5	5.5	1.8	-	-	0.9
	関東地方		(399)	47.6	39.3	17.5	12.5	6.3	3.0	3.0	3.0	1.3	3.0	0.5	0.3	0.3	4.3
	中部地方		(220)	45.0	35.9	18.6	12.7	6.4	4.5	3.6	3.6	2.3	3.6	-	0.9	-	1.4
	近畿地方		(202)	46.5	39.6	17.8	10.4	3.5	3.5	5.4	3.0	4.0	2.0	2.0	0.5	-	2.0
	中国地方		(62)	50.0	29.0	32.3	14.5	4.8	4.8	1.6	1.6	4.8	3.2	1.6	-	-	1.6
	四国地方		(38)	47.4	44.7	18.4	23.7	2.6	-	5.3	2.6	2.6	2.6	2.6	-	-	-
	九州地方		(138)	47.1	40.6	13.8	9.4	8.0	10.9	5.1	2.9	7.2	2.2	0.7	-	-	2.2
性年代別	男性 計		(628)	41.7	43.3	16.2	16.1	9.1	4.8	4.6	3.0	3.3	3.7	0.8	0.5	0.2	2.5
	男性20代		(104)	40.4	28.8	20.2	15.4	7.7	4.8	1.9	3.8	1.9	3.8	-	-	1.0	4.8
	男性30代		(115)	45.2	36.5	13.0	17.4	13.9	4.3	4.3	1.7	3.5	5.2	0.9	-	-	0.9
	男性40代		(136)	42.6	40.4	15.4	16.2	8.8	5.1	6.6	2.9	5.1	2.9	1.5	0.7	-	1.5
	男性50代		(129)	45.0	48.1	16.3	17.1	10.1	4.7	3.9	3.1	3.1	1.6	-	0.8	-	0.8
	男性60代以上		(144)	36.1	57.6	16.7	14.6	5.6	4.9	5.6	3.5	2.8	4.9	1.4	0.7	-	4.9
	女性 計		(593)	52.1	33.7	19.7	9.1	3.5	4.4	3.7	3.9	3.2	2.5	0.8	0.5	-	2.4
	女性20代		(91)	46.2	19.8	26.4	13.2	4.4	8.8	6.6	1.1	3.3	2.2	-	1.1	-	3.3
	女性30代		(116)	56.9	18.1	15.5	11.2	2.6	5.2	4.3	9.5	1.7	0.9	1.7	0.9	-	2.6
	女性40代		(107)	57.0	27.1	16.8	12.1	2.8	5.6	2.8	0.9	3.7	2.8	0.9	-	-	2.8
	女性50代		(137)	53.3	44.5	18.2	6.6	4.4	2.9	2.9	0.7	2.2	3.6	0.7	-	-	1.5
	女性60代以上		(142)	47.2	50.0	22.5	4.9	3.5	1.4	2.8	6.3	4.9	2.8	0.7	0.7	-	2.1

・認知経路は、「新聞」が約4割と高い。以下、「人から教えてもらった」、「その他のインターネットのホームページ」が1割台で続く。

【エリア別】

・『中国地方』では、「人から教えてもらった」が「新聞」をやや上回り、他エリアと傾向が異なる。

【性年代別】

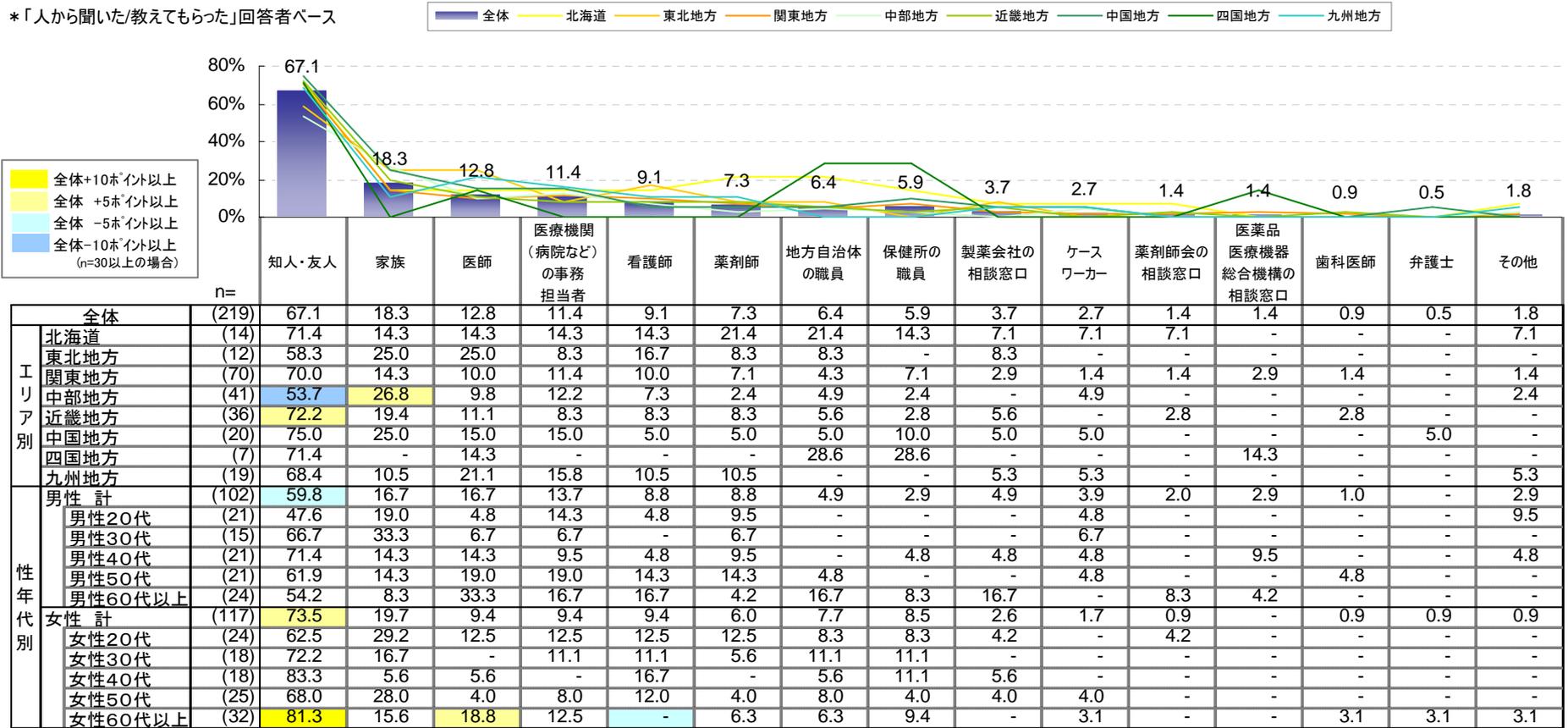
・「新聞」は、『60代以上』の高年齢層で高めとなっている。

6 健康被害救済制度 教えてもらった人

複数回答

Q5 あなたは「健康被害救済制度」について、誰から知りましたか。あてはまるものを全てお選びください。

*「人から聞いた/教えてもらった」回答者ベース



•いずれの層も「知人・友人」が大半を占めている。以下、「家族」、「医師」、「医療機関の事務担当者」などが続く。

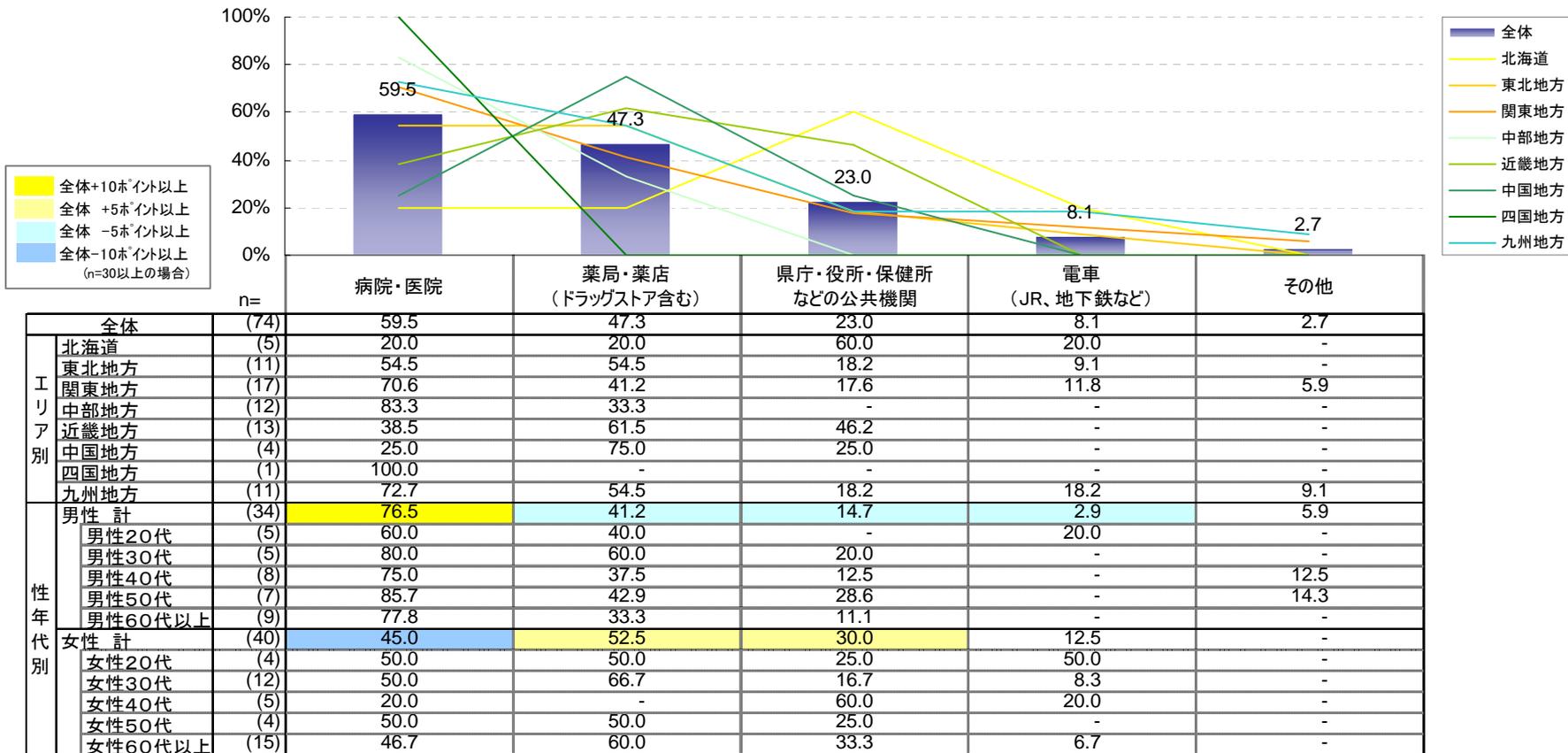
n=30未満は参考値

7 健康被害救済制度 パンフレット・ポスター接触場所

複数回答

Q6 あなたは「健康被害救済制度」のパンフレット、ポスターをどこで見ましたか。あてはまるものを全てお選びください。

* パンフレット・ポスターによる
認知者ベース



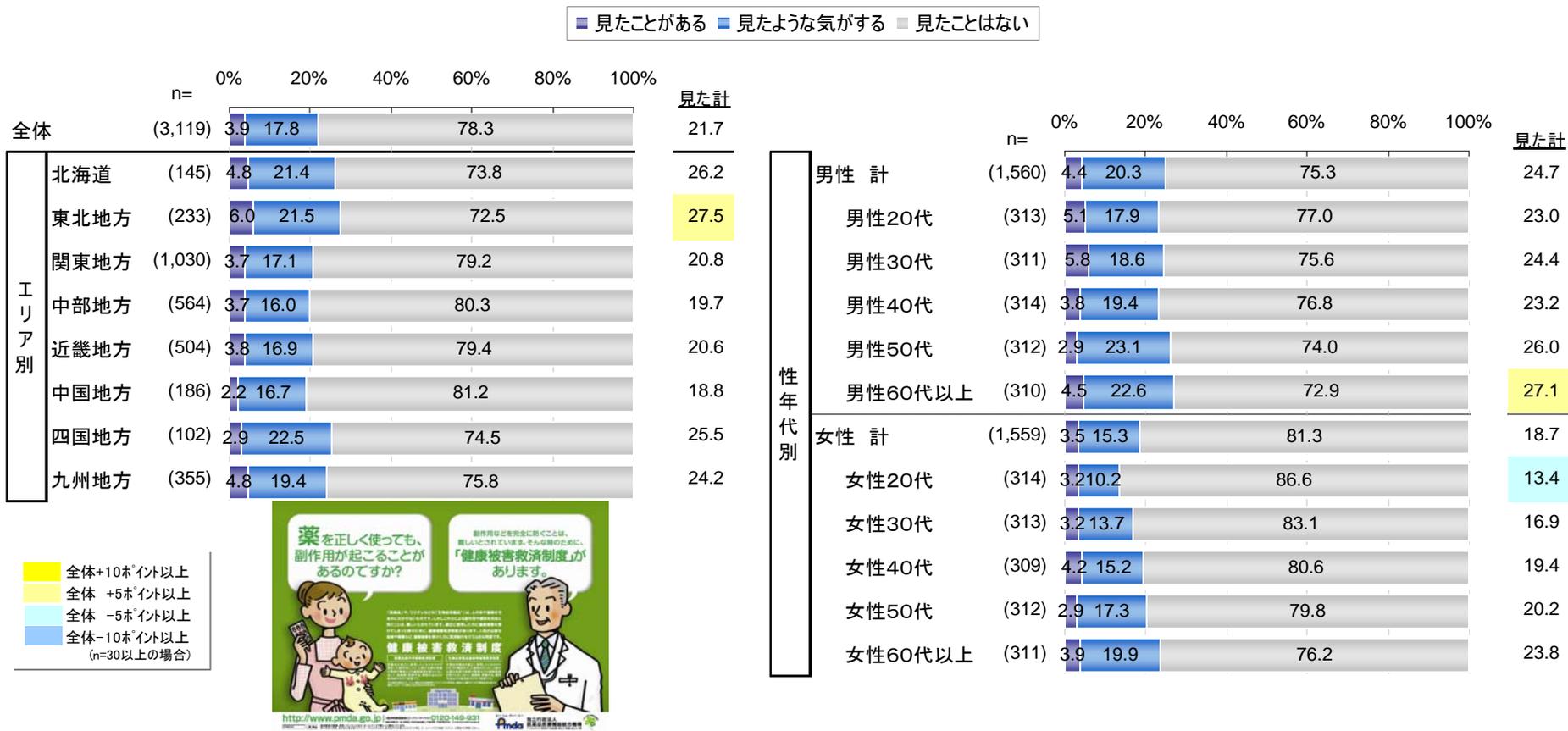
• 主な接触場所は、「病院・医院」、「薬局・薬店」となっている。

n=30未満は参考値

8 広告の認知率

単一回答

Q7 画像をご覧になってからお答えください。あなたは、この広告を見たことがありますか。



- 広告の認知率(見たことがある+見たような)は、2割強。
- 【エリア別】
- 『東北地方』、『北海道』、『四国地方』、『九州地方』の認知率が、25%前後と高め。
- 【性年代別】
- 『男性』の認知率が『女性』をやや上回っている。高年齢層の認知率が高めの傾向。

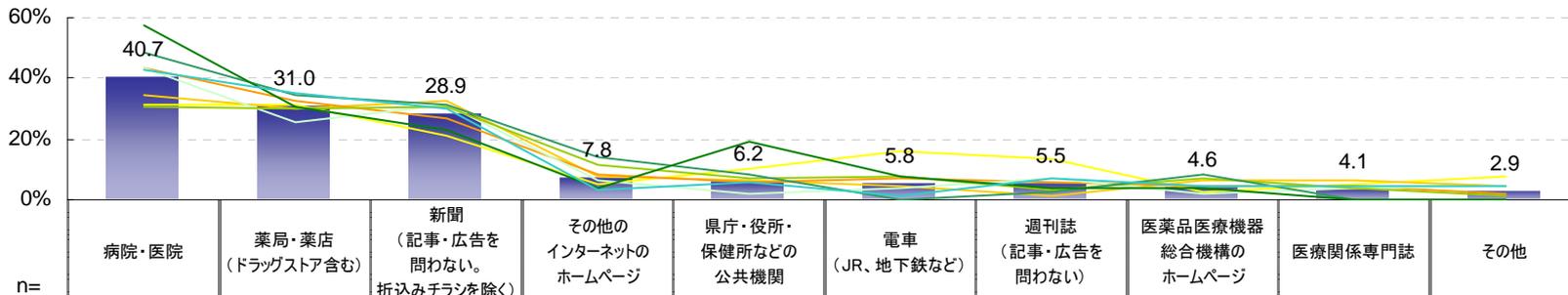
9 広告の接触媒体

複数回答

Q8 あなたは、どこでこの広告を見ましたか。あてはまるものを全てお選びください。

* 広告閲覧者ベース

■ 全体 ■ 北海道 ■ 東北地方 ■ 関東地方 ■ 中部地方 ■ 近畿地方 ■ 中国地方 ■ 四国地方 ■ 九州地方



■ 全体+10ポイント以上
 ■ 全体 +5ポイント以上
 ■ 全体 -5ポイント以上
 ■ 全体-10ポイント以上
 (n=30以上の場合)

n=		病院・医院	薬局・薬店 (ドラッグストア含む)	新聞 (記事・広告を 問わない。 折込みチラシを除く)	その他 インターネットの ホームページ	県庁・役所・ 保健所などの 公共機関	電車 (JR、地下鉄など)	週刊誌 (記事・広告を 問わない)	医薬品医療機器 総合機構の ホームページ	医療関係専門誌	その他
全体	(678)	40.7	31.0	28.9	7.8	6.2	5.8	5.5	4.6	4.1	2.9
エリア別											
北海道	(38)	31.6	31.6	21.1	5.3	10.5	15.8	13.2	2.6	5.3	7.9
東北地方	(64)	34.4	29.7	32.8	7.8	6.3	4.7	1.6	6.3	6.3	4.7
関東地方	(214)	43.5	32.7	26.6	8.4	5.6	7.0	5.6	4.2	4.7	1.9
中部地方	(111)	43.2	25.2	31.5	6.3	1.8	3.6	7.2	1.8	3.6	4.5
近畿地方	(104)	30.8	29.8	30.8	11.5	6.7	7.7	2.9	6.7	3.8	1.0
中国地方	(35)	48.6	34.3	31.4	14.3	8.6	-	2.9	8.6	-	-
四国地方	(26)	57.7	30.8	23.1	3.8	19.2	7.7	3.8	3.8	-	-
九州地方	(86)	43.0	34.9	30.2	3.5	5.8	1.2	7.0	4.7	4.7	4.7
性別											
男性計	(386)	43.0	31.1	28.0	9.3	6.0	6.2	5.4	3.9	3.9	1.3
男性20代	(72)	33.3	37.5	19.4	15.3	4.2	12.5	6.9	4.2	2.8	-
男性30代	(76)	48.7	39.5	21.1	9.2	7.9	9.2	5.3	3.9	6.6	1.3
男性40代	(73)	52.1	30.1	24.7	5.5	4.1	6.8	5.5	5.5	4.1	1.4
男性50代	(81)	35.8	29.6	30.9	11.1	7.4	1.2	3.7	4.9	1.2	1.2
男性60代以上	(84)	45.2	20.2	41.7	6.0	6.0	2.4	6.0	1.2	4.8	2.4
女性計	(292)	37.7	30.8	30.1	5.8	6.5	5.1	5.5	5.5	4.5	5.1
女性20代	(42)	42.9	31.0	14.3	11.9	4.8	16.7	4.8	9.5	7.1	9.5
女性30代	(53)	49.1	45.3	13.2	3.8	3.8	5.7	7.5	9.4	3.8	1.9
女性40代	(60)	40.0	20.0	25.0	5.0	11.7	5.0	1.7	-	3.3	8.3
女性50代	(63)	30.2	31.7	39.7	6.3	3.2	3.2	4.8	4.8	6.3	1.6
女性60代以上	(74)	31.1	28.4	47.3	4.1	8.1	-	8.1	5.4	2.7	5.4

・広告に接触した媒体は、「病院・医院」41%がトップ。以下、「薬局・薬店」、「新聞」が3割前後で続く。

【エリア別】

・『北海道』では、「電車」、「週刊誌」が他のエリアよりも高め。『中国地方』は、「病院・医院」「その他インターネットのホームページ」で他エリアと比べて高め。

【性年代別】

・「病院・医院」「薬局・薬店」は男女30代を中心に高め。

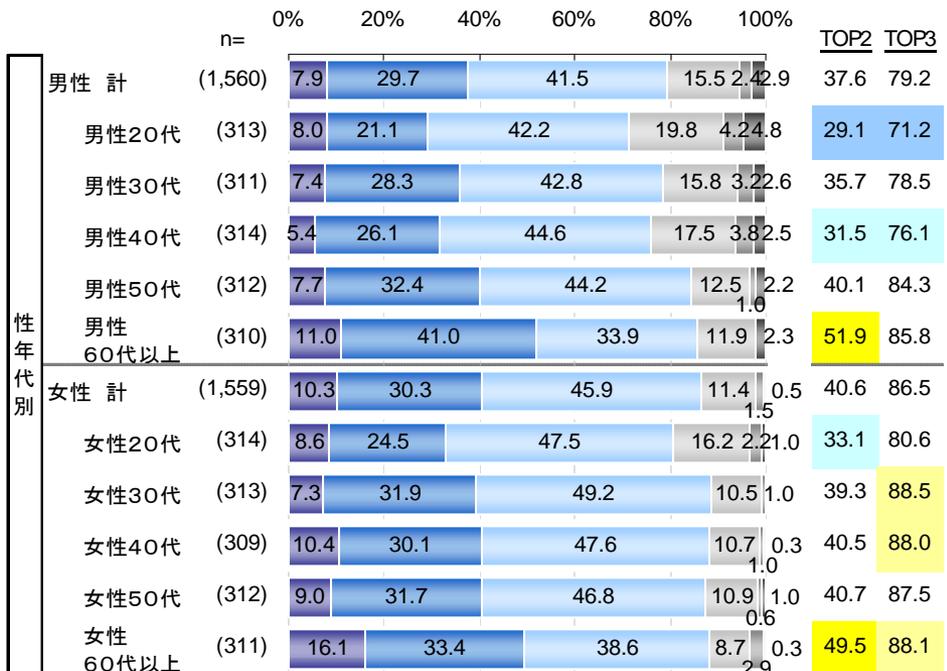
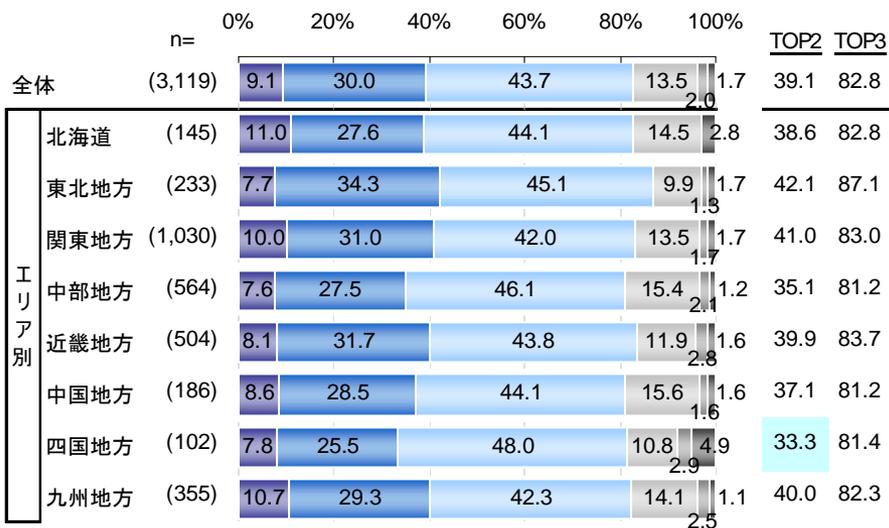
・「新聞」は、男女とも『60代以上』で高く、『女性60代以上』では接触媒体のトップとなっている。

10 健康被害救済制度 関心度

単一回答

Q9 上記の画像をよくお読みになってからお答えください。あなたは「健康被害救済制度」について、どの程度関心がありますか。

■ 非常に関心がある ■ 関心がある ■ やや関心がある ■ あまり関心はない ■ 関心はない ■ 全く関心はない



■ 全体+10ポイント以上
 ■ 全体 +5ポイント以上
 ■ 全体 -5ポイント以上
 ■ 全体-10ポイント以上
 (n=30以上の場合)

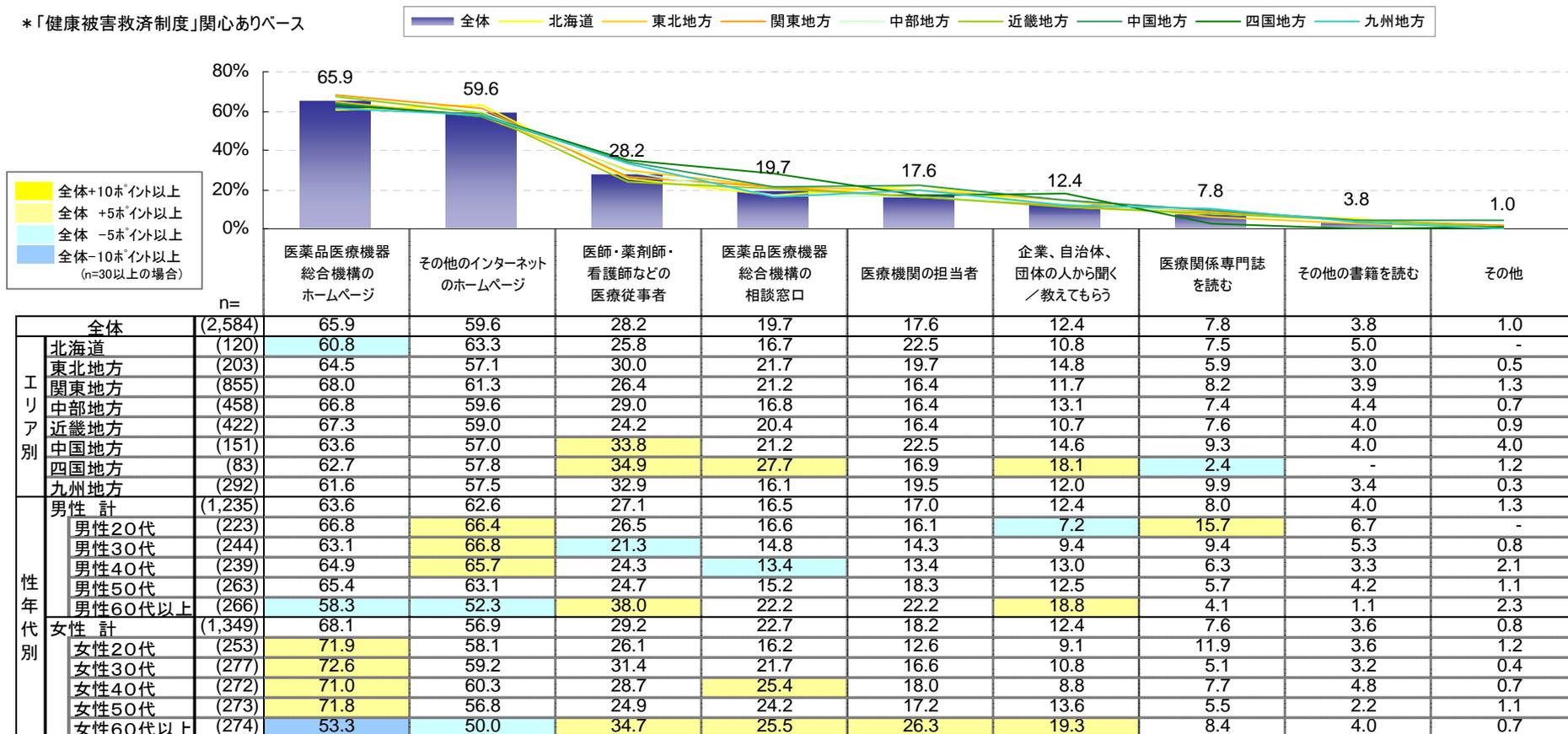
- 関心度TOP3(非常に関心がある、関心がある、やや関心がある)は、8割を超える。
- 【エリア別】
- いずれのエリアも関心度が8割以上となっている。
- 【性年代別】
- 関心度TOP3で見ると、女性のほうが男性に比べて関心が高く、女性30代以上はいずれの年代も9割弱と高い水準。
- 『60代以上』は、「非常に関心がある」+「関心がある」で5割前後と非常に高い。

11 健康被害救済制度 情報収集の方法

複数回答

Q10 あなたが「健康被害救済制度」について情報を収集する場合、どのような方法で情報を入手しますか。あてはまるものを全てお選びください。

*「健康被害救済制度」関心ありベース

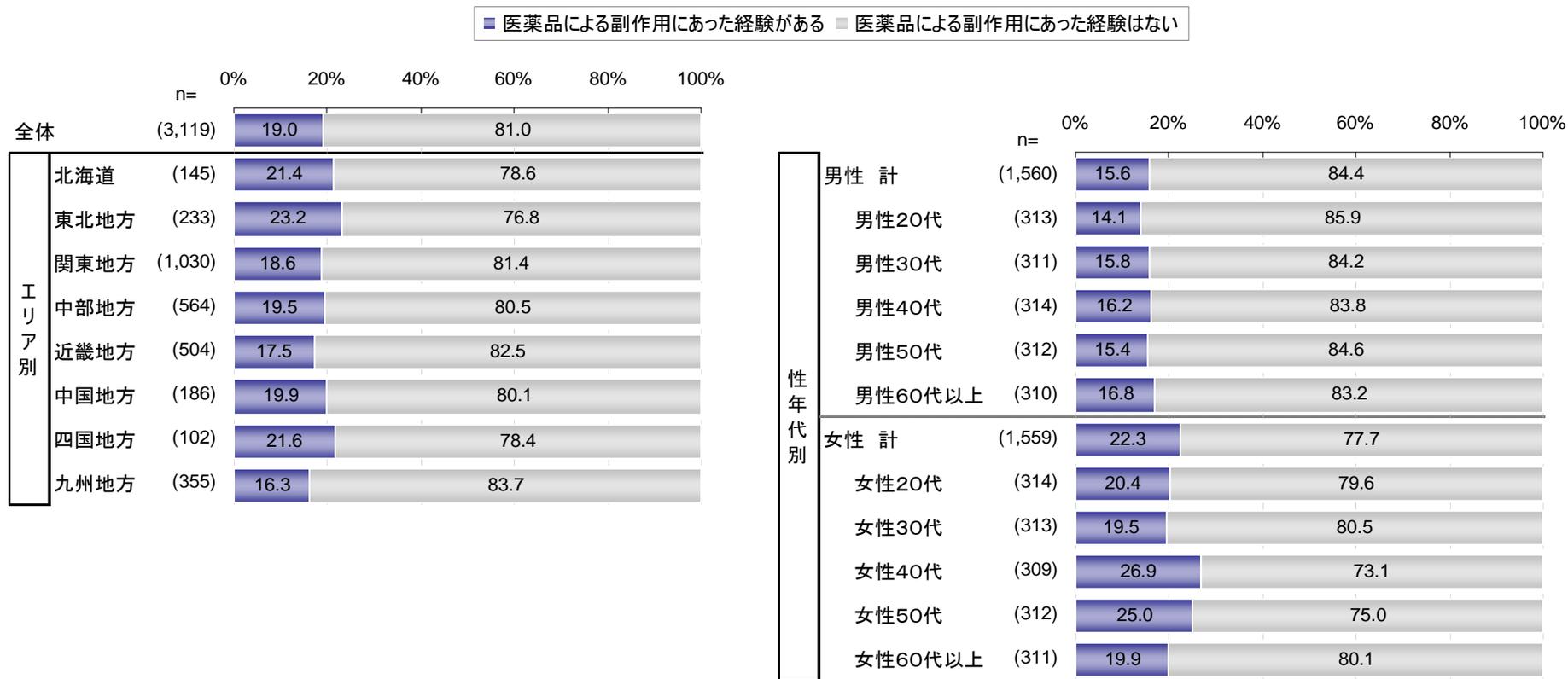


- ・情報収集の方法として、「医薬品医療機器総合機構のホームページ」、「その他のインターネットのホームページ」が6割前後と上位を占める。
- 【エリア別】
- ・『四国地方』は、「医師・薬剤師・看護師などの医療従事者」「医薬品医療機器総合機構の相談窓口」といった項目が他のエリアと比べ高め。
- 【性年代別】
- ・『女性』は、「医薬品医療機器総合機構のホームページ」、『男性』は、「その他のインターネットのホームページ」がそれぞれ高め。
- ・『60代以上』は、「医薬品医療機器総合機構のホームページ」、「その他のインターネットのホームページ」以外の人を介した情報収集に関する項目が特徴的に高くなっている。

12 副作用の経験

単一回答

Q11 あなたは、これまでに医薬品による副作用にあった経験はありますか。



• 医薬品による副作用の経験が「ある」との回答は全体の2割弱。

【エリア別】

• いずれのエリアも2割前後の人が副作用を経験している。

【性年代別】

• 『女性』の方が副作用の経験が高く、『女性40代』では27%にのぼる。

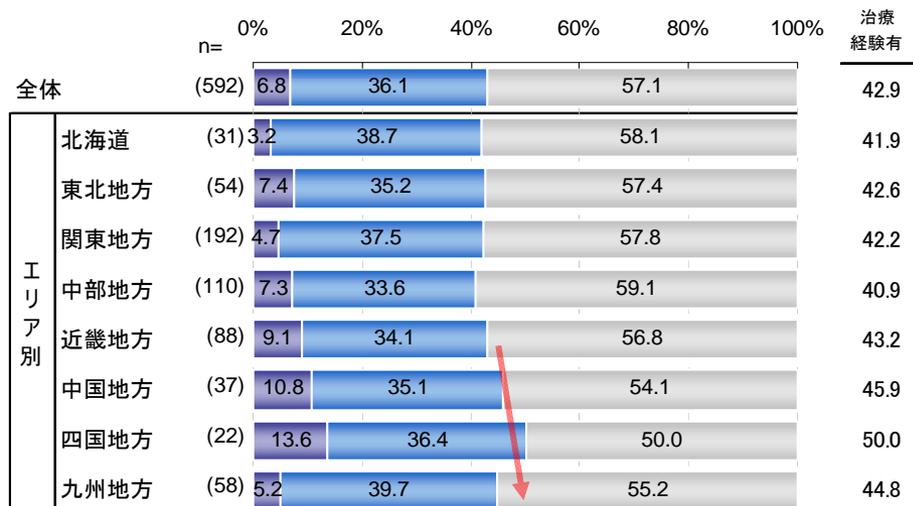
13 副作用で治療を受けた経験

単一回答

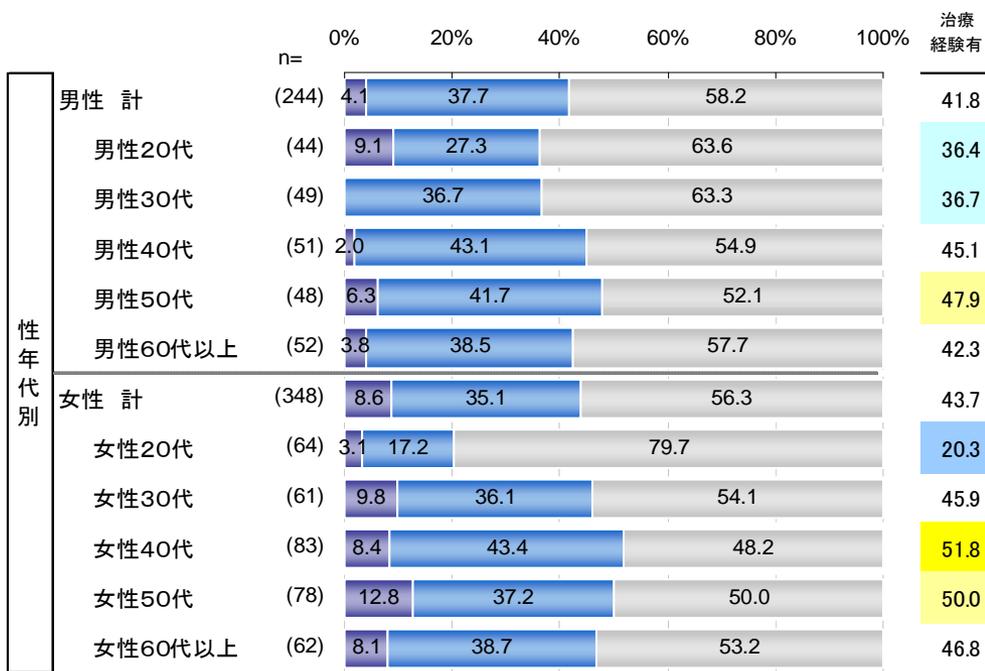
Q12 あなたが医薬品による副作用にあった際に、医療機関で治療を受けたことがありますか。

* 医薬品による副作用経験ありベース

■ 入院して治療を受けたことがある ■ 通院(入院なし)で治療を受けたことがある ■ 治療を受けたことはない



■ 全体+10ポイント以上
 ■ 全体 +5ポイント以上
 ■ 全体 -5ポイント以上
 ■ 全体-10ポイント以上
 (n=30以上の場合)



• 医薬品による副作用で治療を受けた経験が「ある」との回答は全体の4割強。その大半は通院治療となっている。
 【エリア別】
 • 『近畿地方』以西の治療経験が高め。
 【性年代別】
 • 男女とも『40代』、『50代』が治療経験のピークとなっている。一方、『20代』の経験は男女とも最も低くなっている。

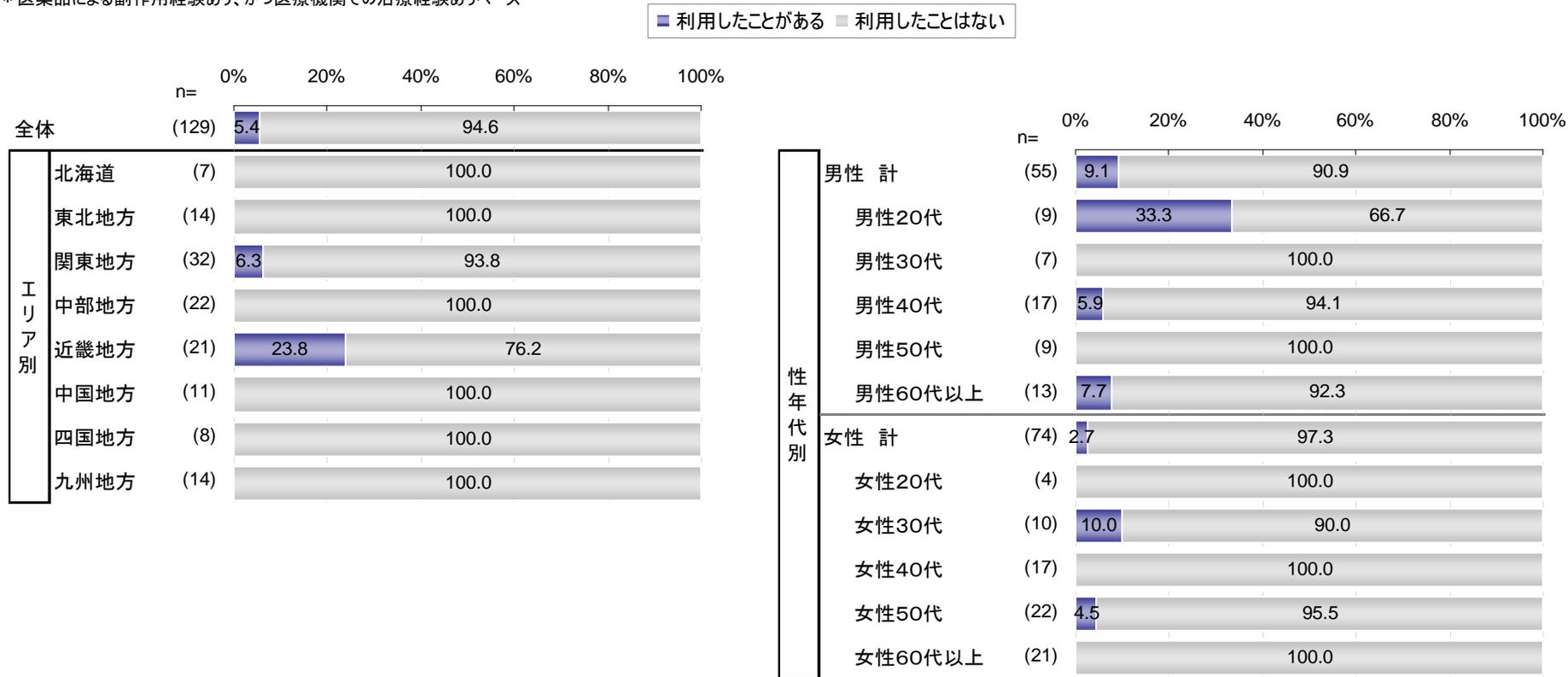
n=30未満は参考値

14 健康被害救済制度を利用した経験

単一回答

Q13 あなたは医薬品の副作用の治療を受けた際に、健康被害救済制度を利用したことがありますか。

* 医薬品による副作用経験あり、かつ医療機関での治療経験ありベース



• 健康被害救済制度の利用経験は5%。

【エリア別】

• 『近畿地方』利用経験が高め。

【性年代別】

• 『男性』の方が利用経験がやや高め。

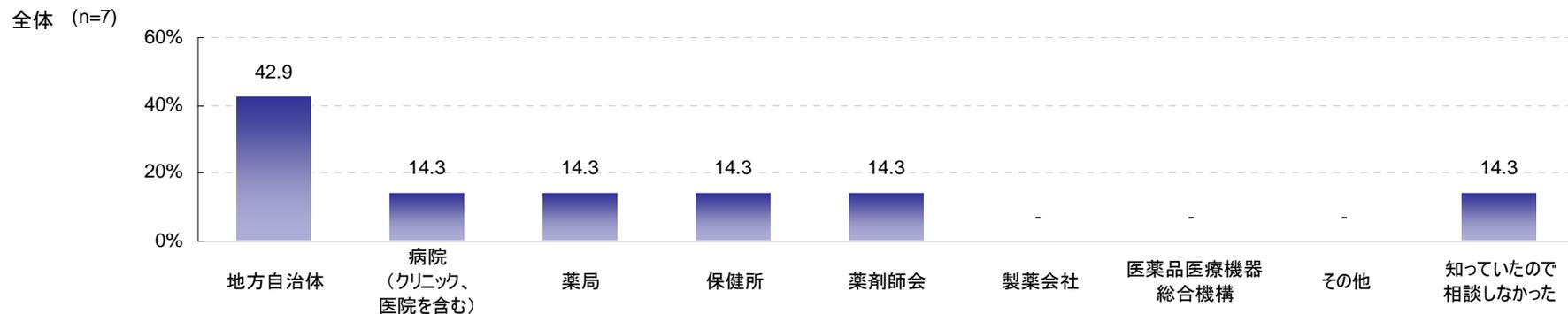
n=30未満は参考値

15 健康被害救済制度利用時の相談先

複数回答

Q14 「健康被害救済制度」を利用した際、どこに相談しましたか。あてはまるものを全てお選びください。

* 健康被害救済制度利用経験ありベース



• 相談先は、7人中3人が「地方自治体」と回答している。

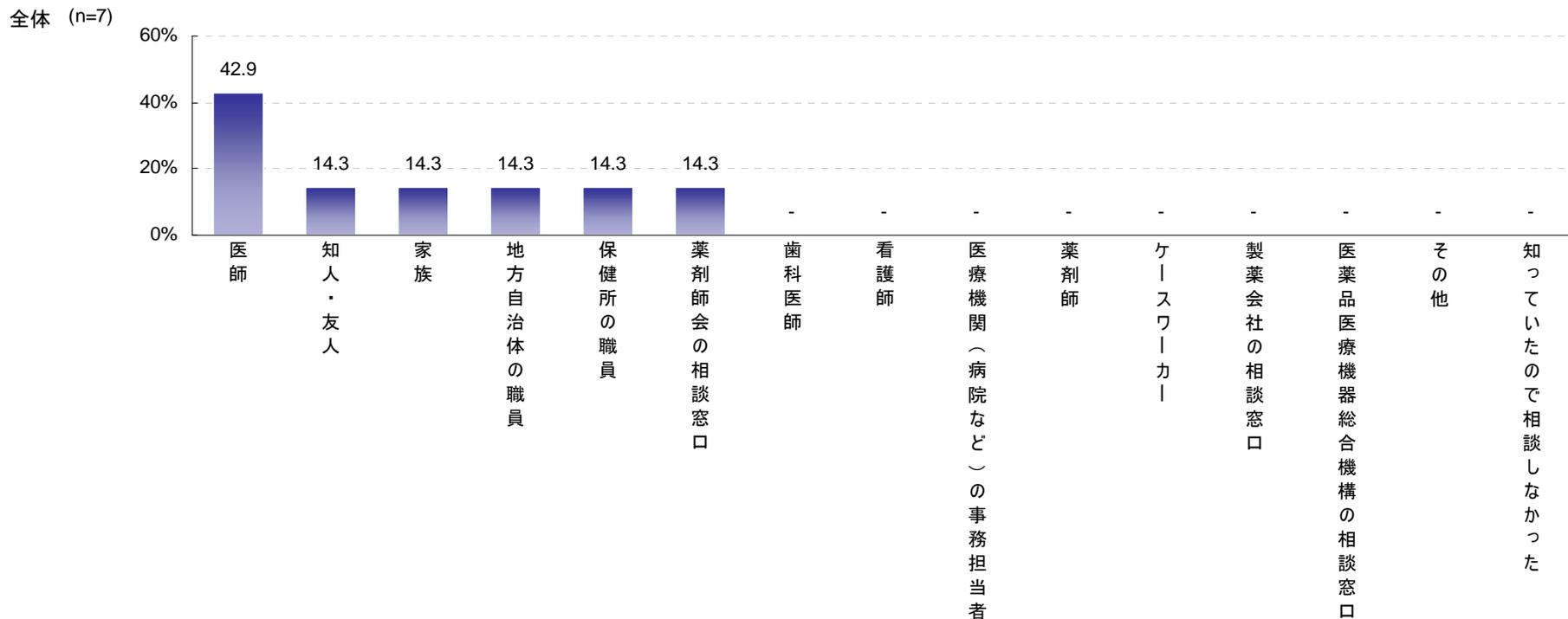
n=30未満は参考値

16 健康被害救済制度利用時の相談相手

複数回答

Q15 「健康被害救済制度」を利用した際に、誰かに相談されましたか。当てはまるものを全てお選びください。

* 健康被害救済制度利用経験ありベース



• 利用時の相談相手は、7人中3人が「医師」と回答している。

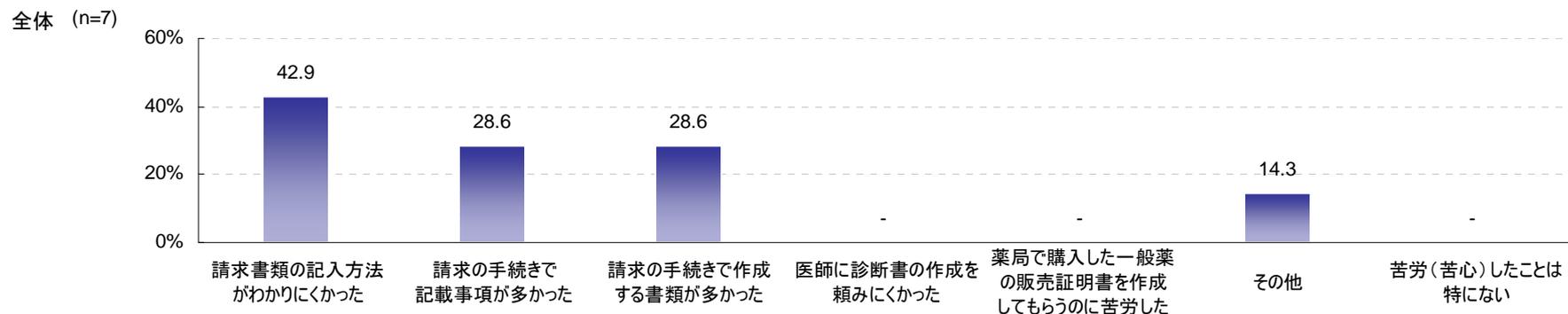
n=30未満は参考値

17 健康被害救済制度利用時に苦勞した事柄

複数回答

Q16 「健康被害救済制度」を利用したときに一番苦勞(苦心)したことについて、あてはまるものを全てお選びください。

* 健康被害救済制度利用経験ありベース



- 利用時に苦勞した事柄は、7人中3人が、「請求書類の記入方法がわかりにくかった」、2人が「請求の手続きで記載事項が多かった」、「請求の手続きで作成する書類が多かった」を挙げている。

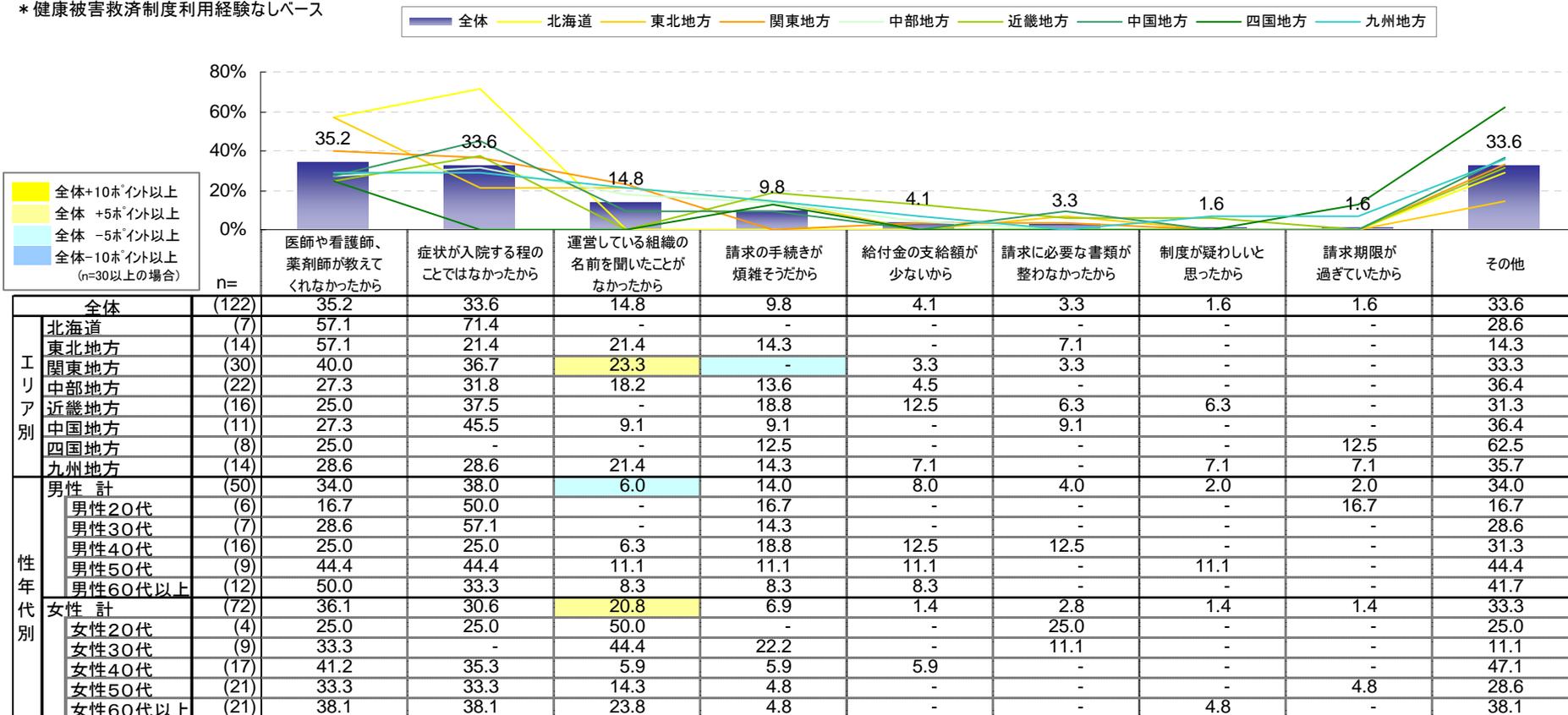
n=30未満は参考値

18 健康被害救済制度を利用しなかった理由

複数回答

Q17「健康被害救済制度」を利用しなかった理由について、あてはまるものを全てお選びください。

* 健康被害救済制度利用経験なしベース



・利用しなかった理由として、「医師や看護師、薬剤師が教えてくれなかったから」、「症状が入院する程のことではなかったから」が3割強で上位となっている。「その他」では、「(当時)制度を知らなかった」、「(当時)制度がなかった」などの意見が挙がっている。

【エリア別】

・『関東地方』は、「運営している組織の名前を聞いたことがなかったから」が高め。

【性年代別】

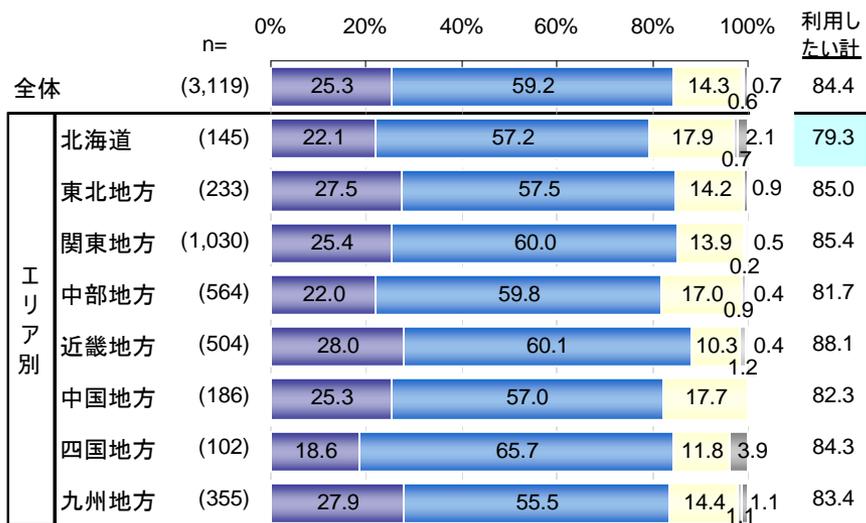
・「運営している組織の名前を聞いたことがなかったから」は、男女差が大きい。

19 健康被害救済制度 今後の利用意向

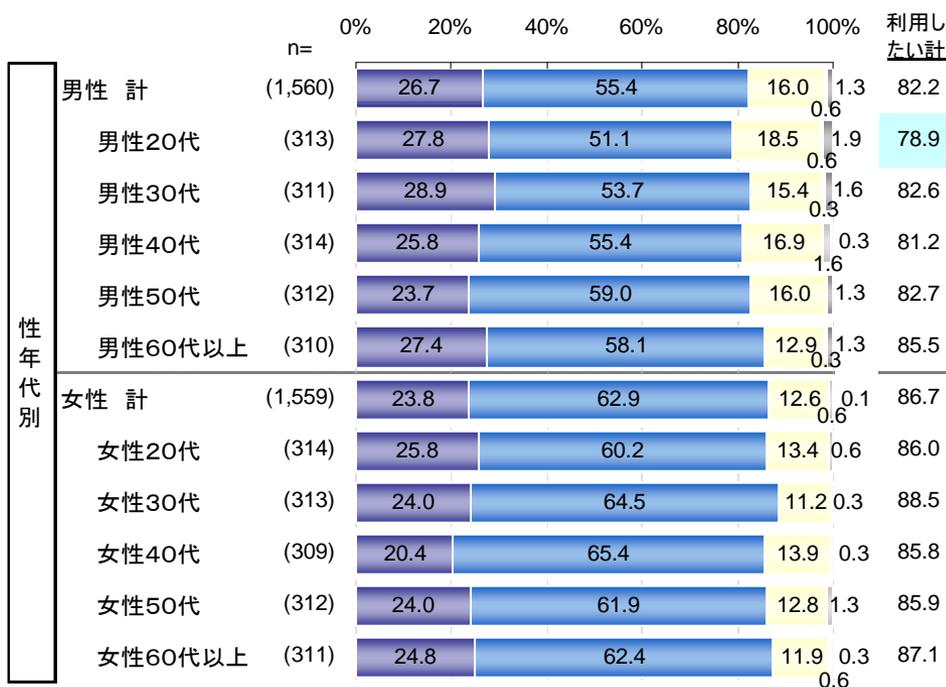
単一回答

Q18 今後、あなたが医薬品の副作用にあった場合、「健康被害救済制度」をご利用したいと思いますか。

■ 利用したい ■ 状況によって利用したい ■ 分からない ■ あまり利用したくない ■ 利用したくない



■ 全体+10ポイント以上
 ■ 全体 +5ポイント以上
 ■ 全体 -5ポイント以上
 ■ 全体-10ポイント以上
 (n=30以上の場合)



• 今後の利用意向(利用したい+状況によって利用したい)は、8割を上回っている。

【エリア別】

• 『北海道』の利用意向は8割を下回る一方、『近畿地方』は9割近くと高い。

【性年代別】

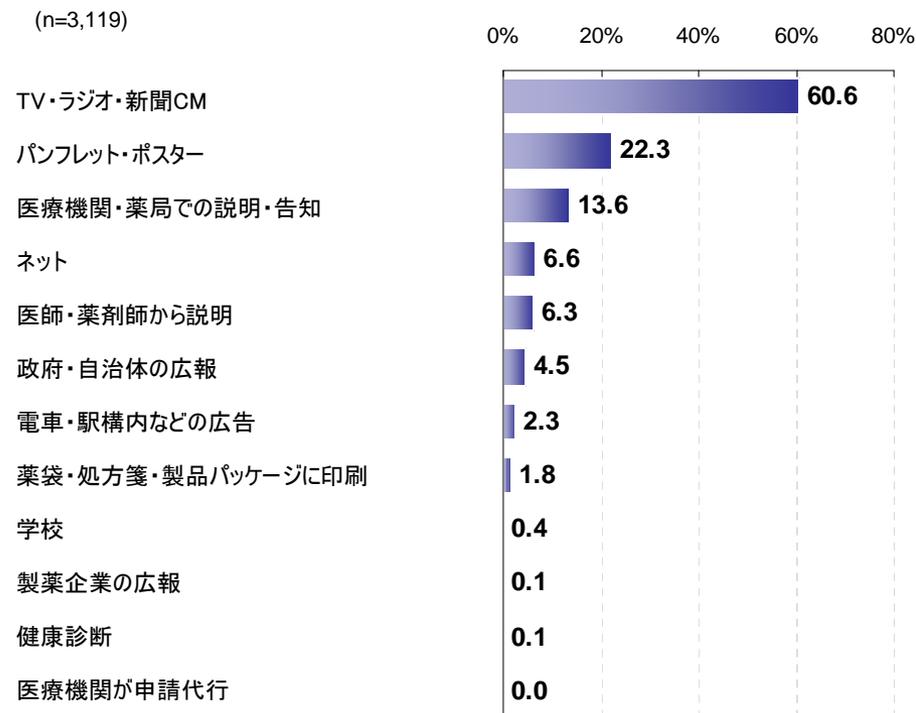
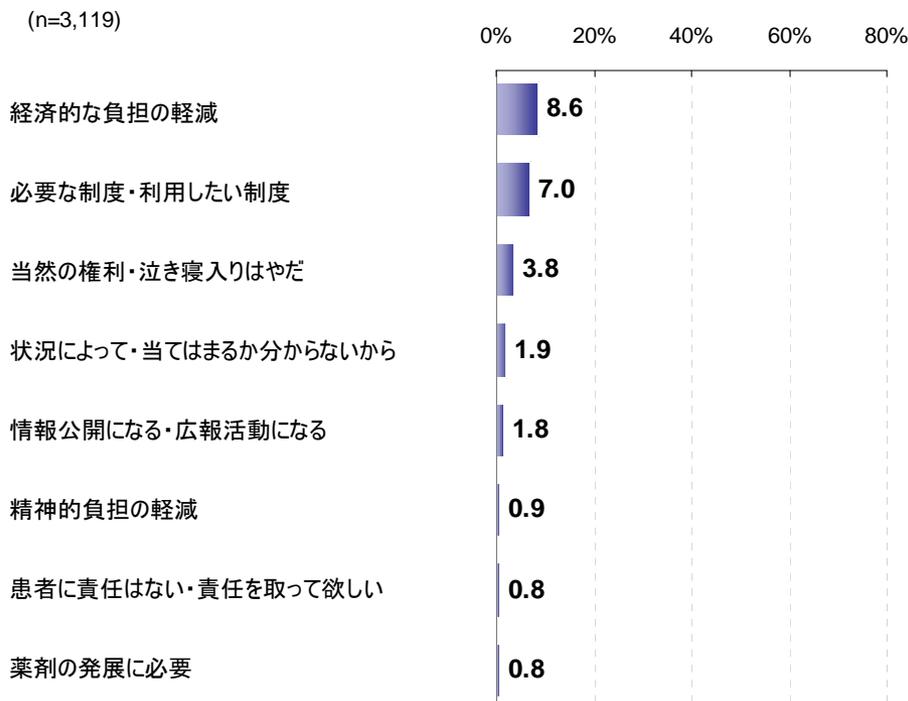
• 『女性』の利用意向は、全ての年代で85%以上と高め。一方、『男性20代』は8割を下回っている。

20 健康被害救済制度 利用意向の理由・有効な周知の方法<自由回答>

複数回答

Q19 今後、あなたが医薬品の副作用にあった場合、「健康被害救済制度」の利用について【Q18の選択内容】と回答されましたが、その理由を具体的にお教えてください。

Q20 「健康被害救済制度」を広く皆様に知っていただくためには、どのような方法が有効だと思いますか。忌憚のないご意見をご記入ください。



- ・利用意向の理由として、「経済的な負担の軽減」、「必要な制度・利用したい制度」などの意見が多く挙げられている。
- ・周知の方法として、「TV・ラジオ・新聞CM」が6割以上と突出している。以下、「パンフレット・ポスター」、「医療機関・薬局での説明・告知」が続く。

付録：調査票

くすりに関する調査

下記アンケートにご協力をお願いします。

本アンケート内では「Acrobat Reader」が必要となっております。
Acrobat Readerをお持ちでない方はこちらよりダウンロードしてください。(無料)



Acrobat Readerを利用して表示される画面は環境によって表示までにお時間がかかる場合がございますのでご注意ください。

当アンケートの回答者の皆様へお願い

マクロミルモニタの皆様にはモニタ規約にて「調査についての守秘義務」の徹底をお願いします。

当アンケートの内容および当アンケートで知り得た情報については、決して第三者に口外しないよう(掲示板やホームページへの書き込みを含む)、ご協力をお願いします。

Q1 あなたは「健康被害救済制度」をご存知ですか。
【必須入力】

1 知っている	2 名前は聞いたことがある	3 知らない
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

ここで改ページ

Q2 あなたは下記に挙げた「健康被害救済制度」をご存知ですか。
【必須入力】

	1 知っている	2 名前は聞いたことがある	3 知らない
1. 医薬品副作用被害救済制度 →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 生物由来製品感染等被害救済制度 →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

ここで改ページ

Q3 「健康被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。
【必須入力】

	1 知っている	2 知らない	3 分からない
1. 医薬品の副作用による被害を受けられた方の迅速な救済を図ることを目的とした公的な制度である →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 医薬品を、適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による疾病や障害などの健康被害について救済給付を行う →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 入院が必要な程度の疾病や障害などの健康被害について救済給付を行う →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 給付の種類がいくつかある (給付の種類：医療費、医療手当、障害年金、障害児童育年金、遺族年金、遺族一時金、葬祭料) →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 給付口は、種類ごとにそれぞれ請求期限がある →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

ここで改ページ

Q4 あなたは「健康被害救済制度」をどのようにして知りましたか。
あてはまるものを全てお選びください。
【必須入力】

- 1. テレビ放送
- 2. ラジオ放送
- 3. 新聞(記事・広告を問わず)折込みチラシを除く
- 4. 週刊誌(記事・広告を問わず)
- 5. 医療関係専門誌
- 6. シンポジウム
- 7. 医薬品医療機器総合機構主催の国民フォーラム
- 8. 医薬品医療機器総合機構のホームページ
- 9. その他のインターネットのホームページ
- 10. 人(知人、医師等、企業、自治体、団体)から聞いた/教えてもらった
- 11. パンフレット
- 12. ポスター
- 13. DVD
- 14. その他

ここで改ページ

Q4で「健康被害救済制度」について、人(知人、医師等、企業、自治体、団体)から聞いた/教えてもらったとお答えの方にお聞きします。

Q5 あなたは「健康被害救済制度」について、誰から知りましたか。
あてはまるものを全てお選びください。
【必須入力】

- 1. 知人・友人
- 2. 家族
- 3. 医師
- 4. 歯科医師
- 5. 看護師
- 6. 医療機関(病院など)の事務担当者
- 7. 薬剤師
- 8. ケースワーカー
- 9. 地方自治体の職員
- 10. 保健所の職員
- 11. 弁護士
- 12. 薬剤師会の相談窓口
- 13. 製薬会社の相談窓口
- 14. 医薬品医療機器総合機構の相談窓口
- 15. その他

ここで改ページ

Q4で「健康被害救済制度」について、パンフレットまたはポスターを知ったとお答えの方にお聞きします。

Q6 あなたは「健康被害救済制度」のパンフレット、ポスターをどこで見ましたか。
あてはまるものを全てお選びください。
【必須入力】

- 1. 電車(JR、地下鉄など)
- 2. 薬局・薬店(ドラッグストア含む)
- 3. 病院・医院
- 4. 県庁・役所・保健所などの公共機関
- 5. その他

ここで改ページ

▼ 以下のボタンをクリックすると別画面で画像表示されます。▼
必ずクリックして、別画面に表示される画像全体をよくご覧ください。

▶ 画像表示

Q7 上記画像をご覧になってからお答えください。
あなたは、この広告を見たことがありますか。
【必須入力】

1	2	3
見たことがある	見たような気がする	見たことはない
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

ここで改ページ

▼ 以下のボタンをクリックすると別画面で画像表示されます。▼
別画面に表示される画像全体をよくご覧ください。

▶ 画像表示

Q8 あなたは、どこでこの広告を見ましたか。
あてはまるものを全てお選びください。
【必須入力】

- 1. 新聞(記事・広告を問わず)、折込みチラシを除く
- 2. 週刊誌(記事・広告を問わず)
- 3. 医療関係専門誌
- 4. 医薬品医療機器総合機構のホームページ
- 5. その他のインターネットのホームページ
- 6. 電車(JR、地下鉄など)
- 7. 薬局・薬店(ドラッグストア含む)
- 8. 病院・医院
- 9. 県庁・役所・保健所などの公共機関
- 10. その他

ここで改ページ

▼ 以下のボタンをクリックすると別画面で画像表示されます。▼
必ずクリックして、別画面に表示される画像全体をよくご覧ください。

▶ 画像表示

Q9 上記の画像をよくお読みになってからお答えください。
あなたは「健康被害救済制度」について、どの程度関心がありますか。
【必須入力】

1	2	3	4	5	6
非常に関心がある	関心がある	やや関心がある	あまり関心はない	関心はない	全く関心はない
<input type="radio"/>					

薬を正しく使っても、副作用が起こることがあるのですか？

副作用などを完全に防ぐことは、難しいとされています。そんな時のために、「健康被害救済制度」があります。

「医薬品」や、「ウチン」などの「生物由来製品」は、人の命や健康を守るのに欠かせないものです。しかしこれらによる副作用や健康被害に際しては、思いがけない場合があります。重症に使用のために健康被害を受けたしまった場合に、健康被害救済制度があります。人が必要な治療や検査など、健康被害を受けた方に救済給付を行う公的な制度です。

健康被害救済制度

医薬品副作用救済救済制度 生物由来製品健康被害救済制度

医薬品を適正に使用し、人にのみならず、動物にも健康被害を発生させる場合があります。副作用や健康被害の発生は、必ずしも使用した医薬品や治療のせいであるとは限りません。重症に使用した医薬品により健康被害を受けた方には、健康被害救済制度があります。人が必要な治療や検査など、健康被害を受けた方に救済給付を行う公的な制度です。

http://www.pmda.go.jp (お問い合わせ) 0120-149-931

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構

医薬品副作用被害救済制度

この制度は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法(平成14年法律第192号)に基づいた公的な制度です。

どのような制度なのですか？

病院・診療所で投薬された医薬品、薬局などで購入した医薬品を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用により、入院が必要な程度の疾病や障害などの健康被害を受けた方に対して救済給付を行う公的な制度です。昭和55年5月1日以降に使用した医薬品により発生した副作用による健康被害が救済の対象となります。

救済給付の請求はどのようにしたらいいのでしょうか？

給付の請求は、健康被害を受けた本人またはその遺族が直接、医薬品医療機器総合機構に対して行います。その際に、医師の診断書や投薬証明書あるいは薬局などで医薬品を購入した場合は販売証明書、受診証明書などが必要となります。救済給付の請求については、医薬品医療機器総合機構へご相談ください。

ここで改ページ

Q9で、「健康被害救済制度」について、【Q9の選択内容】とお答えの方にお聞きます。

Q10 あなたが「健康被害救済制度」について情報を収集する場合、どのような方法で情報を入手しますか。あてはまるものを全てお選びください。

【必須入力】

1. 医療関係専門誌を読む
2. その他の書籍を読む
3. 医薬品医療機器総合機構のホームページ
4. 医薬品医療機器総合機構の相談窓口
5. その他のインターネットのホームページ
6. 医師・薬剤師・看護師などの医療従事者
7. 医療機関の担当者
8. 企業、自治体、団体の人から聞く/教えてもらう
9. その他

ここで改ページ

Q11 あなたは、これまでに医薬品による副作用にあった経験がありますか。

【必須入力】

1. 医薬品による副作用にあった経験がある
2. 医薬品による副作用にあった経験はない

ここで改ページ

Q12 あなたが医薬品による副作用にあった際に、医療機関で治療を受けたことがありますか。

【必須入力】

1. 入院して治療を受けたことがある
2. 通院（入院なし）で治療を受けたことがある
3. 治療を受けたことはない

ここで改ページ

Q13 あなたは医薬品の副作用の治療を受けた際に、健康被害救済制度を利用したことがありますか。

【必須入力】

1 利用したことがある	2 利用したことはない
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

ここで改ページ

Q14 「健康被害救済制度」を利用した際、どこに相談しましたか。あてはまるものを全てお選びください。

【必須入力】

1. 病院（クリニック、医院を含む）
2. 薬局
3. 地方自治体
4. 保健所
5. 薬剤師会
6. 製薬会社
7. 医薬品医療機器総合機構
8. その他
9. 知っていたので相談しなかった

ここで改ページ

Q15 「健康被害救済制度」を利用した際に、誰かに相談されましたか。あてはまるものを全てお選びください。

【必須入力】

1. 知人・友人
2. 家族
3. 医師
4. 歯科医師
5. 看護師
6. 医療機関（病院など）の事務担当者
7. 薬剤師
8. ケースワーカー
9. 地方自治体の職員
10. 保健所の職員
11. 薬剤師会の相談窓口
12. 製薬会社の相談窓口
13. 医薬品医療機器総合機構の相談窓口
14. その他
15. 知っていたので相談しなかった

ここで改ページ

Q16 「健康被害救済制度」を利用したときに一番苦労（苦心）したことについて、あてはまるものを全てお選びください。

【必須入力】

1. 請求の手続きで記載事項が多かった
2. 請求の手続きで作成する書類が多かった
3. 請求書類の記入方法がわかりにくかった
4. 医師ご診断書の作成を頼みにくかった
5. 薬局で購入した一般薬の販売証明書を作成してもらうのに苦労した
6. その他
7. 苦労（苦心）したことが特になし

ここで改ページ

Q17 「健康被害救済制度」を利用しなかった理由について、あてはまるものを全てお選びください。

【必須入力】

1. 制度が難しいと思ったから
2. 運営している組織の名前を聞いたことがなかったから
3. 医師や看護師、薬剤師が教えてくれなかったから
4. 症状が入院する程のことではなかったから
5. 請求期限が過ぎていたから
6. 請求の手続きが複雑そうだから
7. 請求に必要な書類が整わなかったから
8. 給付金の支給額が少ないから
9. その他



ここで改ページ

Q18 今後、あなたが医薬品の副作用にあった場合、「健康被害救済制度」をご利用したいと思いますか。
【必須入力】

1 利用したい	2 状況によって利用したい	3 分からない	4 あまり利用したくない	5 利用したくない
<input type="radio"/>				



ここで改ページ

Q19 今後、あなたが医薬品の副作用にあった場合、「健康被害救済制度」の利用について
【【Q18の選択内容】】と回答されましたが、その理由を具体的にお教えください。
【必須入力】

※500文字以内でご記入ください。



ここで改ページ

Q20 「健康被害救済制度」を広く皆知っていただくためには、どのような方法が有効だと思いますか。
忌憚のないご意見をご記入ください。
【必須入力】

※500文字以内でご記入ください。

アンケートは以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。
回答もれがないか確認し、よろしければ「送信」ボタンをクリックしてください。

送信